

令和6年度

鹿嶋市 重点施策 事業評価シート

【中間面談による実施】

政策企画部政策推進課

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	1	担当課	D×行革推進室	事業名	政策の断捨離
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な行財政運営 取組 (2) 事業の選択と集中による財政運営			市長政策	O24 無理・無駄・ムラをやめる・へらす・かえる（見える化）

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	政策・事業・業務を検証するとともに、予算・決算・投資額等の概要を整理する。	関係課からのデータ収集及び整理	事業、団体、地区状況等の経年変化把握・共有	○
産出	予算・決算・投資額等の概要の「見える化」が進み、それぞれの状況が明らかになり、現状を把握しやすくなる。	財務状況の見える化	R5年度決算データ集計、全庁共有	○	
活動	事務事業や業務プロセス等の「見える化」による課題抽出に取り組む。	個別協議による改善検討	各課個別協議 15件 D×独自取組 5件	○	
産出	課題の洗い出しや費用対効果等を精査することにより、業務改善意識も高めながら、改善を進められる。	業務プロセスの見える化 個別協議事項の改善	改善実施 10件 検討継続 9件、保留 1件	○	
活動	政策・事業・業務を整理整頓し、断捨離対象事業を抽出。見直しに向けた関係者との協議、予算の調整を行う。	R4年度抽出事業の進捗管理 R6年度断捨離事業の抽出	予算断捨離リスト整理開始。所属提案も同時収集	○	
産出	政策、事業、業務を断捨離する。	抽出事業の断捨離（進捗管理）	下期：予算編成に合わせて断捨離事業を整理	○	
活動	「無理・無駄・ムラ」「やめる・へらす・かえる」の継続したアナウンスを行いながら、多くの行革取組、職員提案を募り、評価を行う。	提案募集、評価実施	上期実施は職員提案のみ（提案7件）	○	
産出	多くの提案等を評価・表彰することで、庁内での様々な取組の横展開を図りつつ「止める・減らす・変える」の意識が醸成される。	各種提案等の横展開	下期：職員提案結果公表、行革取組表彰実施	○	
活動					
産出					
活動					
産出					

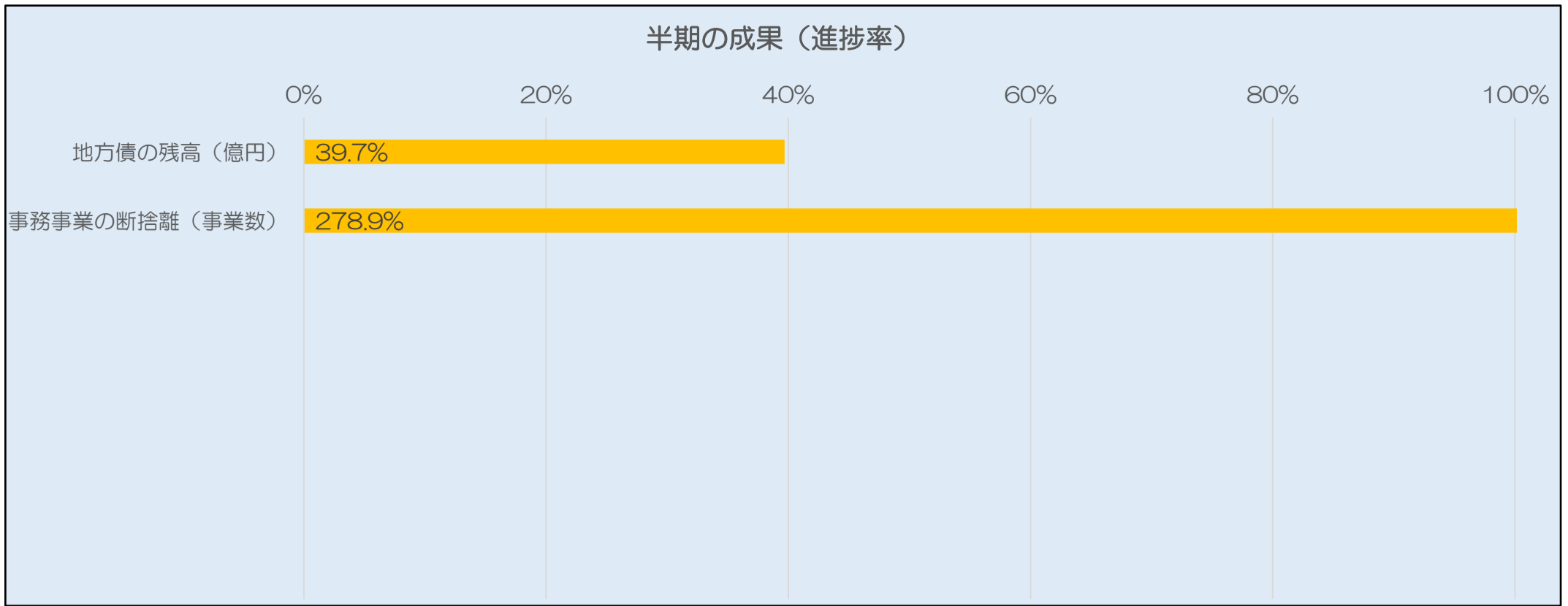
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
断捨離予定事業を特定する。	前年度課題：予算断捨離は財政課と行革推進室の連携が弱い（改善でより良くなる）。	財政・行革担当の連携不足	<ul style="list-style-type: none"> ・財政・行革推進室の連携を強化 ・予算編成前から行革・改善策を模索 ・見える化データの活用

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 地方債の残高（億円）	↘	ストック指標 成果累積型	中間成果	139.5	160.8	39.7%
② 事務事業の断捨離（事業数）	↗	ストック指標 成果累積型	産出	19	53	278.9%
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- 市債残高は、財政計画上の指標となっている令和5年度末見通しの162.9億円を超える削減となっており、着実な実績を積み上げている。
- 事務事業の断捨離は、令和4年度抽出事業の令和5年度末で整理できうるものは廃止・縮小を完了したほか、令和5年度における次年度予算編成過程において、38事業の改善が図られた。
- 着実に成果を上げている状況ではあるが、行革を継続して推進していくため、指標値を超えてでも改善を進めていく必要がある。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
断捨離事業の整理は、予算編成（削減）とも密接な関係にあるため、予算編成過程（ヒアリング等）から断捨離取組を連動させる。	予算調整に関する活動対象に「行革推進室」を追加する。	今年度中	<ul style="list-style-type: none"> 予算ヒアリング体制を強化 見える化データや所属提案などの行革素材の活用

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

現状の本市取組は、コストを最低限に抑制し最大限の成果を目指している段階であり、当面は財政課等関係組織とも協力体制を強化しながら、継続的な取り組みとして全庁的な行財政改革を進めていく。
 業務プロセスの更なる効率化、人的リソースの適正配置・削減に向けて、コンサル等事業者支援による全庁業務の一点検や業務量調査などの取り組みについても検討していきたい（関係課：人事課）。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	3	担当課	政策推進課	事業名	公共交通対策事業
施策の位置づけ	施策5-1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (2) 効率的・効果的なネットワークづくり 取組 ②誰もが利用しやすい公共交通体系の形成			市長政策	007 新公共交通への挑戦 905 デマンドタクシーとタクシーチケットの検証

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
活動	既存事業の精査	市内公共交通に関する情報を収集する	市内公共交通の利用者数を把握した	○
産出	交通事業者間の情報が連携される	各交通事業者のダイヤ情報等を集約し公開する	公共交通計画を策定し、市内公共交通のダイヤ情報等をHP上で公開した	○
活動	交通結節点における、案内表示の多言語表記を検討	新技術の情報収集	交通系事業者と意見交換の実施 (4/26茨城トヨペット, 7/8ネクストモビリティ, 7/22ネクストモビリティ, 7/26茨城トヨペット, 8/1ニアミー, 8/16茨城トヨペット, 9/4ネクストモビリティ, 9/18ニアミー, 9/25東洋計測)	○
産出	①拠点間（内）移動手段の方向性が整理される ②交通結節点における、多機能な待合環境が整備される	交通結節点に係る情報収集	交通結節点の利用者数を把握した	○
活動	交通施策と福祉施策との線引き	公共交通計画の施策に「地域コミュニティによる互助交通の導入検討」を位置付ける。	令和5年度に実施済み。	
産出				
活動	新技術（AIオンデマンド、MaaS等）の導入検討、社会実験の実施	新技術の情報収集	交通系事業者と意見交換の実施 (4/26茨城トヨペット, 7/8ネクストモビリティ, 7/22ネクストモビリティ, 7/26茨城トヨペット, 8/1ニアミー, 8/16茨城トヨペット, 9/4ネクストモビリティ, 9/18ニアミー, 9/25東洋計測)	○
産出	拠点間（内）移動手段の方向性が整理される	AIデマンド交通の導入に向けたシステムを設計する	プロポーザル方式の設計業務委託に関する仕様書、実施要領等の作成	○
活動				
産出				
活動				
産出				

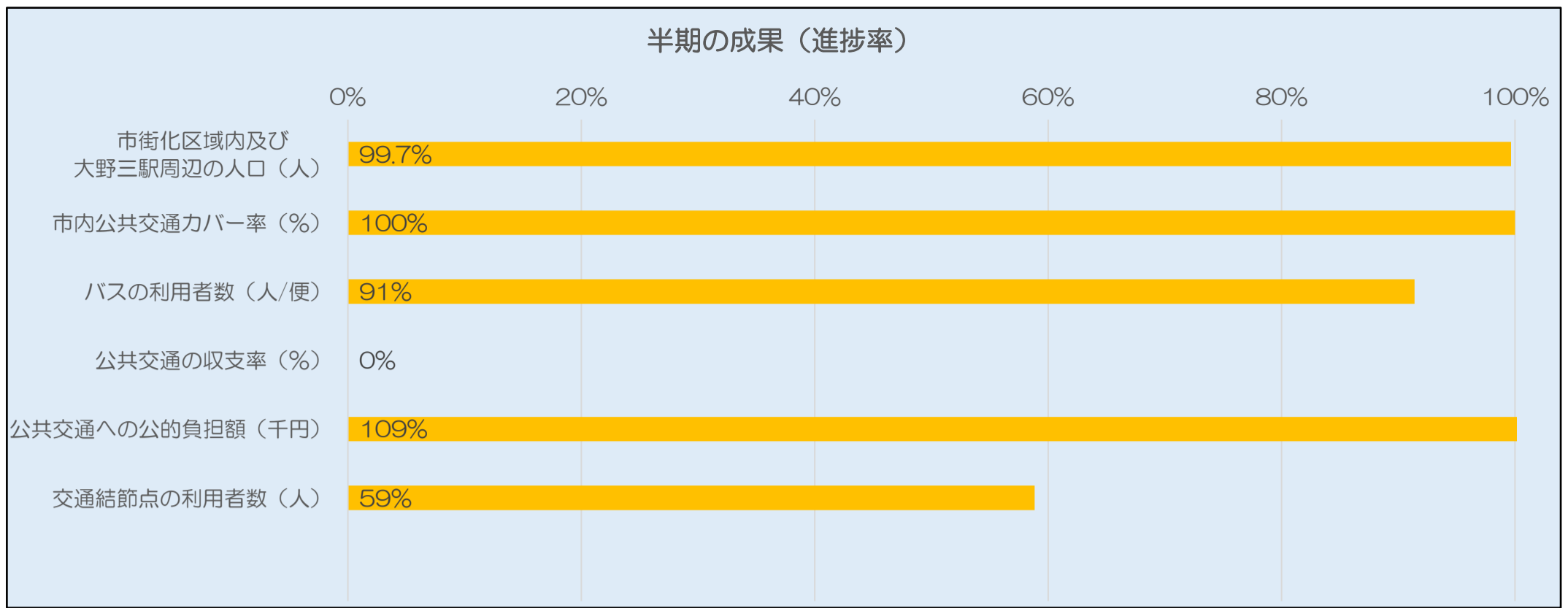
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 市街化区域内及び大野三駅周辺の人口（人）	→	ストック指標 成果累積型	中間成果	39,200	39,070	99.7%
② 市内公共交通力バー率（%）	→	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100	100	100%
③ バスの利用者数（人/便）	↗	フロー指標 単年度増減型	中間成果	9.3	8.5	91%
④ 公共交通の収支率（%）	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	21.6	-	-
⑤ 公共交通への公的負担額（千円）	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	57,043	52,477	109%
⑥ 交通結節点の利用者数（人）	↗	フロー指標 単年度増減型	産出	49,546	29,155	59%
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

①市域が人口減少傾向にあることから、指標設定当初と比較し減少しているものの、R6年3月末より29人の微増となっている。②デマンド型乗合いタクシーの運行により、交通空白地を網羅し、市内公共交通カバー率100%を維持している。③令和5年度末時点での実績（8.1人/便）と比較し、1便当たり0.4人利用者が増加していることから単年での進捗は概ね予定通りであるが、令和5年度が前年度比0.1人/便の増加であったため、全体としての進捗は遅れている。④現時点での収支率の算出が困難であることから分析不可。⑤燃料費の高騰やタクシー運賃改定の影響から令和6年度のデマンドタクシー運行費は増加したものの、鹿行広域バスへの費用負担がなくなったことから、全体的な公的負担額は減少し、目標を達成する見込みとなっている。（負担見込額で算出）⑥半期の実績で目標値の59%と順調に推移しており、コロナ収束の影響による利用者数の復調が考えられる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
コミュニティバスの利用の少ないバス停の廃止やダイヤ改正等について検討する。		次年度以降	停留所ごとの利用者数の分析 市内公共交通の時刻表との連携

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

市民の日常生活に不可欠な移動手段を持続可能な交通体系として確立するため、引き続き交通事業者等への支援を行うとともに、利便性向上のため、新技術の導入について検討を進める。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	4	担当課	政策推進課	事業名	総合戦略推進事業
施策の位置づけ	施策1-2 多様なライフスタイルを応援する 施策の方向性 (2) 多様な働き方・暮らし方の実現 取組 ①移住・定住の促進			市長政策	023 子育て支援

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市内・庁内でのブランディングを強化する	コミュニティを利用してもらう	5件（ふるさと納税戦略室、港湾エネルギー振興課、都市計画課、商工観光課、丸三老舗）	○
活動	職員とコミュニティメンバーが双方向でコミュニケーションを図る	投稿後にメンバーコメントへリアクションを行う	拍手やコメントバックにより、双方向コミュニケーションとなっている	○	
産出	投げかけた事業担当課の課題に対しコミュニティから反応がある	多様な意見の集約	コミュニティでの意見を基に、ふるさと納税の使い道を決定	○	
産出	ファンコミュニティの参加者が増加する	1,000人/月の増加	7,654人/半期の増加	○	
活動	AIやコミュニティ施策を活用しコミュニティを活性化させる	活性化のためのトピック立て	鹿嶋市ランキング、住み続けたいポイント、地元や好きな自治体にしかない特徴、横断CPなどを実施	○	
産出	コミュニティでの会話を通して生活者の「声」が集積する	コメントの獲得 拍手の獲得	コメント2,100件/半期 拍手21,945件/半期	○	
活動	地元特産品や風景・人などを紹介しシティプロモーションを行う	活性化のためのトピック立て	広報紙やイベントの紹介、丸三老舗の新商品ネーミングと一緒に考えるトピック立てを実施	○	
産出	「鹿嶋市」という認知を獲得する	鹿嶋を思い出した瞬間をメンバーで共有する	毎日投稿可能な「鹿嶋を思い出した瞬間」を投稿するトピックを実施	○	
活動	中心市街地へサテライトオフィスを設置する新規立地企業へ補助金を交付する	補助金を交付する	6/20付け交付決定	○	
産出	新業種の企業が立地する	IT企業が立地する	施設設計及び工事調整を実施中	○	
産出	中心市街地にサテライトオフィスが設置される	サテライトオフィスが設置される	施設設計及び工事調整を実施中	○	
活動					
産出					
活動					
産出					

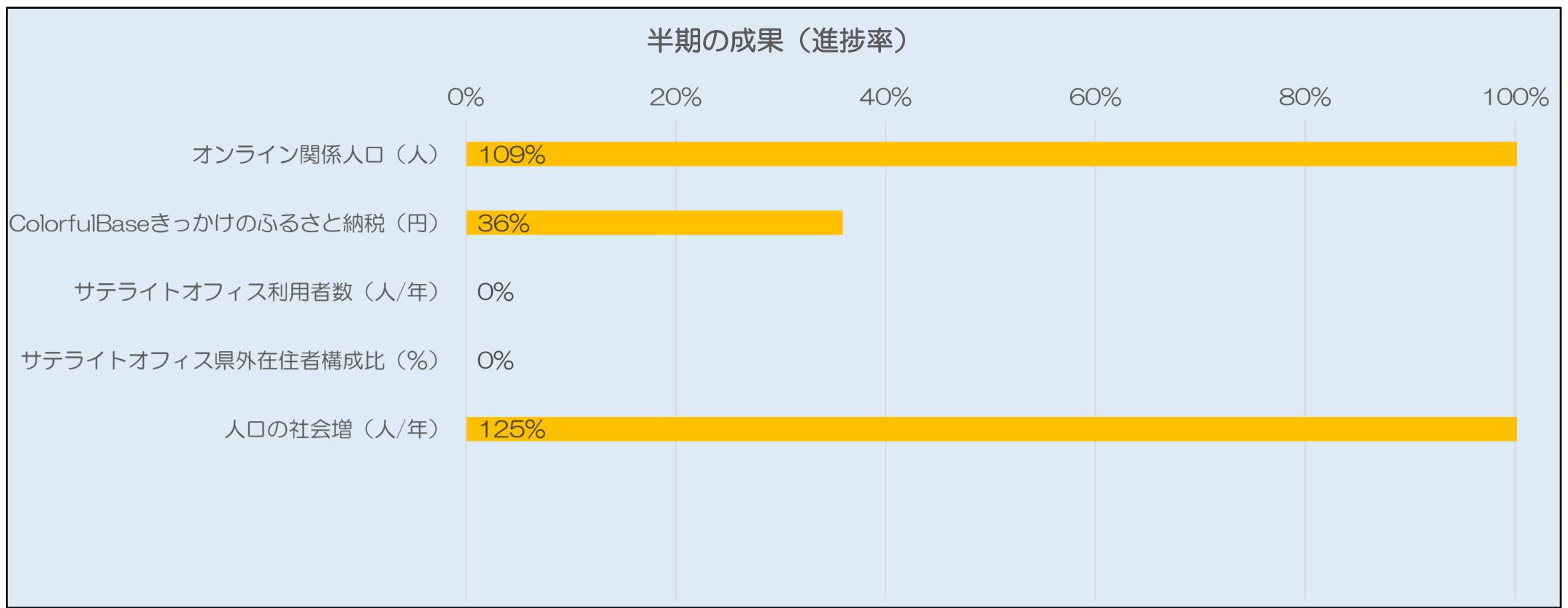
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① オンライン関係人口（人）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	50,000	54,630	109%
② ColorfulBaseきっかけのふるさと納税（円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	6,300,000	2,262,979	36%
③ サテライトオフィス利用者数（人/年）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	5,000	-	整備後計測
④ サテライトオフィス県外在住者構成比（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	30	-	整備後計測
⑤ 人口の社会増（人/年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	110	138	125%
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

オンライン関係人口は着実に増加しており、多様なコメントや共感の拍手を獲得できている。ColorfulBaseきっかけのふるさと納税額についても、前年同月比では、144%（約70万円のプラス）となっており、年末に向けて更なる上積みが見込める。人口の社会増については、2024年4月から9月の実績で、目標を達成しているが、コミュニティの直接的な因果関係の把握が困難である。しかし、コミュニティ内で実施したアンケート調査では、“鹿嶋市に旅行や用事で訪れたい”や“鹿嶋市に住んでみたい”と回答した方の割合は、上昇傾向にあり、鹿嶋市への関与意欲は高まっている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
軽微な修正	KPIの置場所が間違っていたため、正しい位置へ修正		
軽微な修正	ColorfulBaseきっかけのふるさと納税の目標値2026年度未が、未記入であったため追記		

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	5	担当課	広報秘書課	事業名	地域情報発信事業
施策の位置づけ	施策1-2 多様なライフスタイルを応援する 施策の方向性 多様な働き方・暮らし方の実現 取組 ③多様な交流・かかわりの創出			市長政策	022 市民による鹿嶋市自慢（SNS）

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	写真を中心としたSNS投稿で鹿嶋市の魅力が伝わる情報を広く発信する。	市外のフォロワーが多い媒体を活用して情報を発信	フォロワー数、情報発信回数、閲覧数 ※別紙資料参照（SNSフォロワー数・投稿等概要）	○
産出	鹿嶋市の風景やイベントの様子がアップされ、「鹿嶋ならではの」がSNS利用者に伝わる。	インスタ、フェイスブックに投稿		○	
活動	各部からの情報を適切な媒体に振り分け、広報かしまやLINE等を通じて地域の情報を発信する。	市内のフォロワーが多い媒体を活用して情報を発信	フォロワー数、情報発信回数、閲覧数 ※別紙資料参照（SNSフォロワー数・投稿等概要）	○	
産出	ターゲットに定めているSNS利用者層へ行政情報が届き、身近な媒体から情報を取得できるようになる。	広報かしま、LINE等で情報発信		○	
活動	定期的に、情報受信者について分析する。	各SNS利用者の性別、年齢、居住地の把握	利用状況 ※別紙資料参照（SNS利用状況）	○	
産出	情報取得に関する受信者の傾向を掴む。	閲覧数や閲覧分野の把握	閲覧数、閲覧分野 ※別紙資料参照（SNSフォロワー数・投稿等概要）	○	
活動					
産出					
活動					
産出					
活動					
産出					

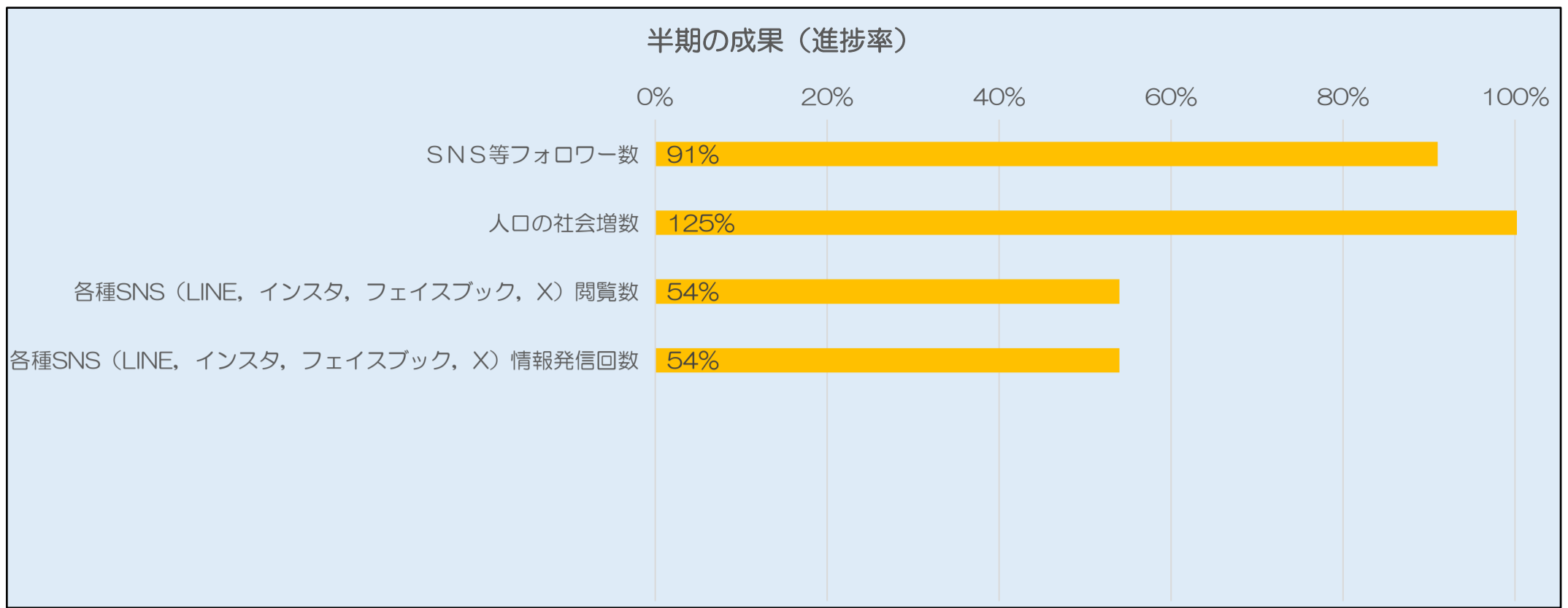
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
各部からの情報を適切な媒体に振り分け、広報かしまやLINE等を通じて地域の情報を発信する。	かしまナビのフォロワーが大きく減少している。	一定期間閲覧がないと運営側で登録を解除してしまう。	かしまナビを廃止し、LINEのセグメント配信の導入を検討する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① SNS等フォロワー数	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	60,000	54,693	91%
② 人口の社会増数	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	110	138	125%
③ 各種SNS（LINE、インスタ、フェイスブック、X）閲覧数	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	1,240,000	670,004	54%
④ 各種SNS（LINE、インスタ、フェイスブック、X）情報発信回数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	430	231	54%
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

公式SNS等のフォロワー数について、ほとんどの媒体で増であるが、かしまナビは一定期間閲覧がない場合、運営側で登録を解除してしまうため、大きく減少している。各種SNSは、イベントのお知らせや各種講座の募集などの手段として、即時性もあり有効な手段であるので、積極的に活用する一方で整理・見直しを行う必要がある。

（年度当初との比較）

X +128人 (15,338人), Facebook +47人 (2,156人), instagram +315人 (6,741人), LINE +245人 (11,515人), かしまナビ -2381人 (7,336人), かなめーる -72人 (9,870人), マチイロ+26人 (1,737人)

人口の社会増数については、情報発信の成果と断定することができず、様々な外的要因も影響していると考えられるため、分析が難しい。また、年度末頃（特に3月）には転出も多くなるため、最終的にはもっと少ない数字になると思われる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
各SNS等のフォロワー数は増であるが、かしまナビは大きく減少している。市内向けの情報発信を効果的に行うためにも、かしまナビを廃止し、LINEのセグメント配信を導入する。	なし	次年度以降	OLINEセグメント配信費用 217万8千円 ※デジ田交付金108万9千円 R8以降 132万円 【廃止】かしまナビ配信費用 59万4千円減

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	6	担当課	港湾エネルギー振興課	事業名	港湾振興事業
施策の位置づけ	施策4-2 未来につながる産業を創出する 施策の方向性 (1) グリーン成長分野への挑戦 取組 ①海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）の整備と利用促進			市長政策	001 洋上風力ビジョンの推進 002 鹿嶋グリーン戦略（再エネ+水素）

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が発電事業者との意見交換を行う 市が茨城県・地元利害関係者との意見交換を行う	意見交換	発電事業者（3回：3社） 鹿島灘漁組（3回）	×
産出	市・県・利害関係者・発電事業者が事業化に向けた協議を行う	意見交換	関係者と意見交換は行ったが、 事業化には至っていない	○	
活動	市が啓発活動を行う	鹿嶋まつりブース出展・ワーク ショップ・出前講座・子供大学	鹿嶋まつりにブース出店	○	
産出	市民の理解促進する	理解促進	参加者60名	○	
活動	市と発電事業者が市民・地元企業等へのセミナーの開催する 市が基地港案を使用する事業者とのビジネスマッチングの開催する	意見交換、ビジネスマッ チングの開催	千葉銚子OW打合せ（3回）	○	
産出	市民の理解促進する 地元企業の事業参入意欲が向上する	調整・協議	ビジネスマッチングは2月 開催で調整中	○	
活動	市が港湾インフラのニーズを把握する	意見交換	千葉銚子OWや洋上風力関 連企業との意見交換	○	
産出	市と関係団体が基地港湾の機能拡充のための国・県への要望を行う	要望活動	県政要望を提出、茨城県や関東 地区の意見交換会で要望	○	
活動	市が必要用地のニーズを把握する 市が企業遊休地等の把握する	意見交換 情報収集、現地確認	企業から情報は無い 引き続き情報収集	○	
産出	市が土地利用の協力依頼を行う	情報収集	企業からの情報は無い	○	
活動	市長がトップセールスを行う	情報発信	8回	○	
産出	洋上風力関連企業が鹿嶋市に注目	情報発信	鹿嶋市の取組みをPRするこ とができた	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

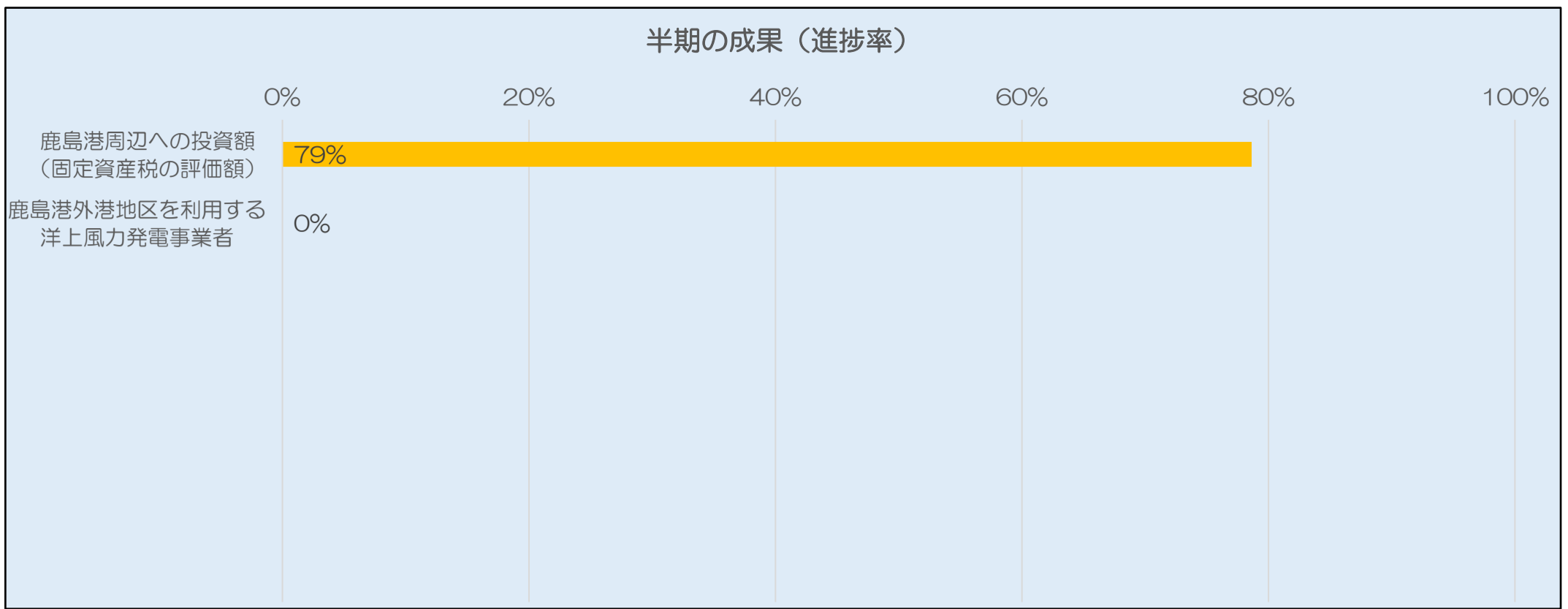
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市が発電事業者との意見交換を行う 市が茨城県・地元利害関係者との意見交換を行う	鹿嶋市沖に興味を示す発電事業者が余り ない。前向きな案件がないため、利害関 係者との接触も難しい。	一般海域案件も増加（促進区域10、有 望な区域9）し、主な発電事業者は他の 海域にチャレンジしていると思われる。	積極的に発電事業者や利害関係者と接触し、 課題等を整理する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデル の位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 鹿嶋港周辺への投資額 （固定資産税の評価額）	↑	ストック指標 成果累積型	最終成果	270,000,000,000	212,341,018,601	79%
② 鹿嶋港外港地区を利用する 洋上風力発電事業者	↑	ストック指標 成果累積型	最終成果	1	0	0%
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

・戦略1「総合支援拠点の基盤づくりと基地港湾機能の強化」については、基地港湾は本年度完成を予定している。基地港湾の機能強化として、将来に向け保管ヤード等の拡充や産業用地の確保が必要となる。要望活動や茨城県・直轄事務所との意見交換において、市の考えは理解されているが、事業化までは時間を要する。

・戦略2「鹿嶋市・神栖市ウインドファームの形成」については、利害関係者と意見交換は行っているが、前向きな発電事業者（着床式）とコンタクトできていない。主な発電事業者は、現在進行している案件に取り組んでいると思われる。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
産業用地等の確保については、外港地区の港湾関連用地の事業化に向け、企業ニーズを把握し、具現化する。	なし		
鹿嶋市沖の洋上風力発電事業については、浮体式は、EEZでの実証事業海域に向け、国や発電事業者の動向に注視しつつ、情報収集・共有に努めていく。また、着床式については、共同漁業権内の事業誘致に向け、情報発信するとともに、利害関係者へ積極的なアプローチを行う。	なし		

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	7	担当課	財政課	事業名	財務事務経費
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 (2) 事業の選択と集中による財政運営			市長政策	025 経常収支比率・実質単年度収支・3基金 029 財源の振替と確保

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市の財政状況について、職員向けの説明会を実施する	予算説明会時等における繰り返しの状況説明	説明会やサイボウズ上で財政状況等の周知を4回実施	○
産出	説明会に参加した職員が増加し、状況を理解する者が増えていく	説明を受けた職員の増加	管理職のみではなく一般職員に向けてもサイボウズで周知	○	
活動	歳出超過となっている市の財政事業を職員に周知する	予算説明会時等における繰り返しの状況説明	第1次要求段階で23億円の財源不足をサイボウズ周知	○	
産出	説明会に参加した職員が増加し、状況を理解する者が増えていく	説明を受けた職員の増加	サイボウズ掲示板を活用したことで、職員向けに広く周知できた	○	
活動	事業課が事業の断捨離を意識する予算編成方針を作成する	抜本的な予算編成方針の作成	第2次要求における、一件査定方式から枠配分方式への変更検討	○	
産出	職員が事業の意義と必要性を改めて考え、積極的な事業の精査、見直しが進む	事業費削減の努力	部への予算編成権限移譲により優先度に応じた事業選定が期待できる。	×	
活動					
産出					
活動					
産出					
活動					
産出					

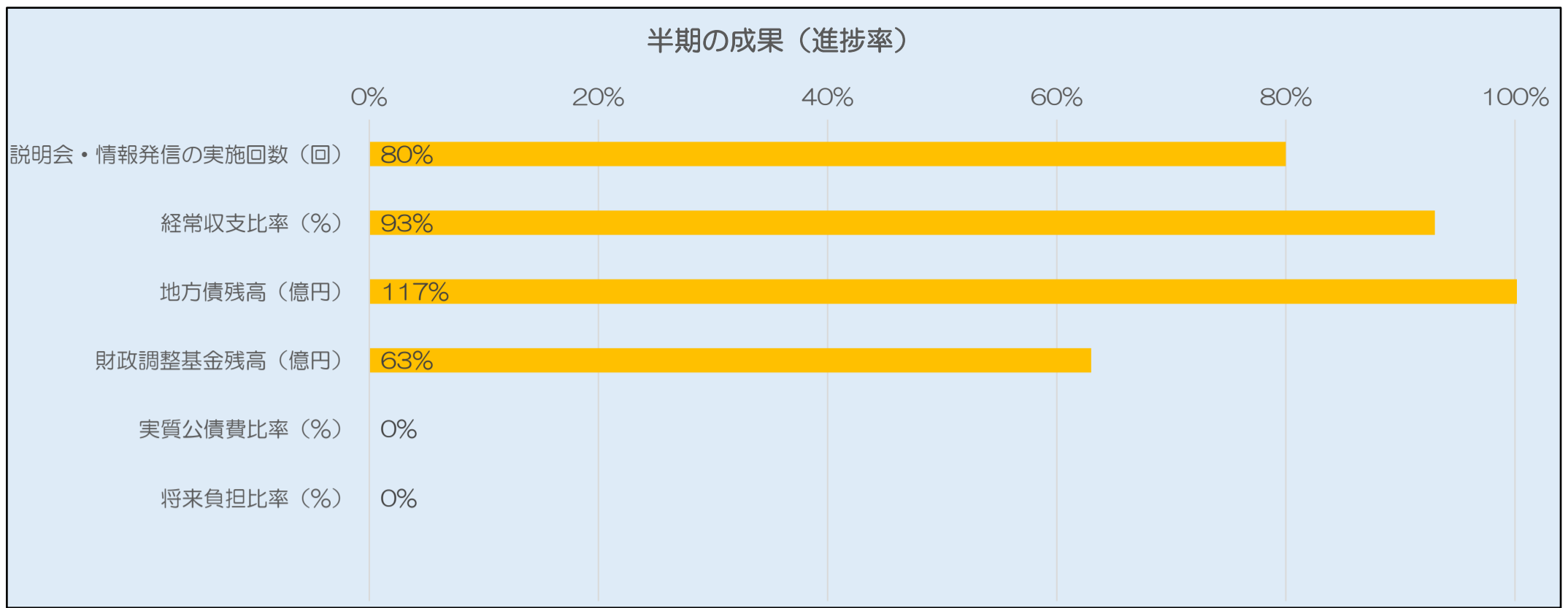
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
職員が事業の意義と必要性改めて考え、積極的な事業の精査、見直しが進む。	事業の見直しを進めているが、大幅な歳出抑制につながっていない。	継続的に実施してきた事業を抜本的に見直すことが困難	改めて事業の必要性の精査を依頼し、各部署における事業見直しを促進する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 説明会・情報発信の実施回数（回）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	5	4	80%
② 経常収支比率（%）	↘	フロー指標 単年度増減型	直接成果	86.2	R5d決算値 92.5	93%
③ 地方債残高（億円）	↘	ストック指標 成果累積型	中間成果	180	R6d末見込額 153.9	117%
④ 財政調整基金残高（億円）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	28	17.7	63%
⑤ 実質公債費比率（%）	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	7.3	6.5	—
⑥ 将来負担比率（%）	↘	フロー指標 単年度増減型	中間成果	80.0	39.7	—
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

地方債残高については、償還額が新規借入額を上回っているため減少しているが、財政調整基金、減債基金、特定目的基金の残高合計の増には至っていない。税収等の大幅な歳入増が叶わないことや新たな財源確保ができていないことに加え、年々扶助費が増となっていることで全体的な歳出抑制が進まないため、安定的な財政運営ができていないことが理由と考えられる。また、事業の断捨離を進めているものの、事業廃止というような抜本的な見直しとなったものも少ない。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
引き続き職員への財政状況の周知を継続しつつ、予算編成手法を、財政課が個別に査定する一件査定方式から、事業課において断捨離を意識しなければならないこととなる枠配分方式へ変更する。	修正事項なし	今年度中	予算編成権限の一部を財政課から各部へ移譲するため、枠内に収めるために各部において事業の優先順位判断が必要となる。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

現在実施している事業の必要性判断においては、近隣市の実施状況を把握した上、本市の基金残高が最低ランクであるという財政状況から近隣市と同水準の事業展開が困難となっていることを認識し、廃止・休止を意識した事業見直しを進めていく必要がある。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	8	担当課	人事課	事業名	職員研修経費
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 ⑤職員の人財育成と定員、給与の適正化			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	研修担当課が、職員のヒューマンスキル及び鹿嶋市職員としての使命感を高めるために必要な研修の制度・機会を創出する。	新規採用職員研修、新任研修（係長、課長補佐、課長、部長）などの指定		
産出	職員が年代ごとに公務員として身に着けるべき内容を扱う研修を受講する。			【受講人数・受講率】 新規採用職員研修 12人（100%） 階層別研修 68人（90.7%） 他	○
活動	研修担当課が、職員のコンセプチュアルスキルを高めるために必要な研修の制度・機会を創出する。	ロジックモデル研修、新任研修（係長、課長補佐、課長、部長）などの指定			○
産出	職員が役職ごとに行政運営にあたって身に着けるべき内容を扱う研修を受講する。			【受講人数・受講率】 ロジックモデル研修 43人（100%） 階層別研修 68人（90.7%） 他	○
活動	研修担当課が、職員のテクニカルスキルを高めるために必要な研修の制度・機会を創出する。	法制執務講座、データ分析活用研修、各種実務研修などの指定			○
産出	①職員が部署の要請に応じた専門的な研修を受講する。 ②職場内において職員が学びの機会に触れ、自己啓発が促される。			【受講人数・受講率】 法制執務講座 3人（100%） データ分析活用研修 6人（100%） 他	○
活動	研修担当課が、職員の自己啓発に係る制度・機会を創出する。	自主研修提案の募集、海外派遣研修の周知など			○
産出	①職員が自ら企画し、学びのための研修を受講する。 ②職員が職場外でも学びの機会に触れ、自己啓発が促される。			海外派遣研修 1名 資格取得助成 3名 他	○
活動					
産出					
活動					
産出					

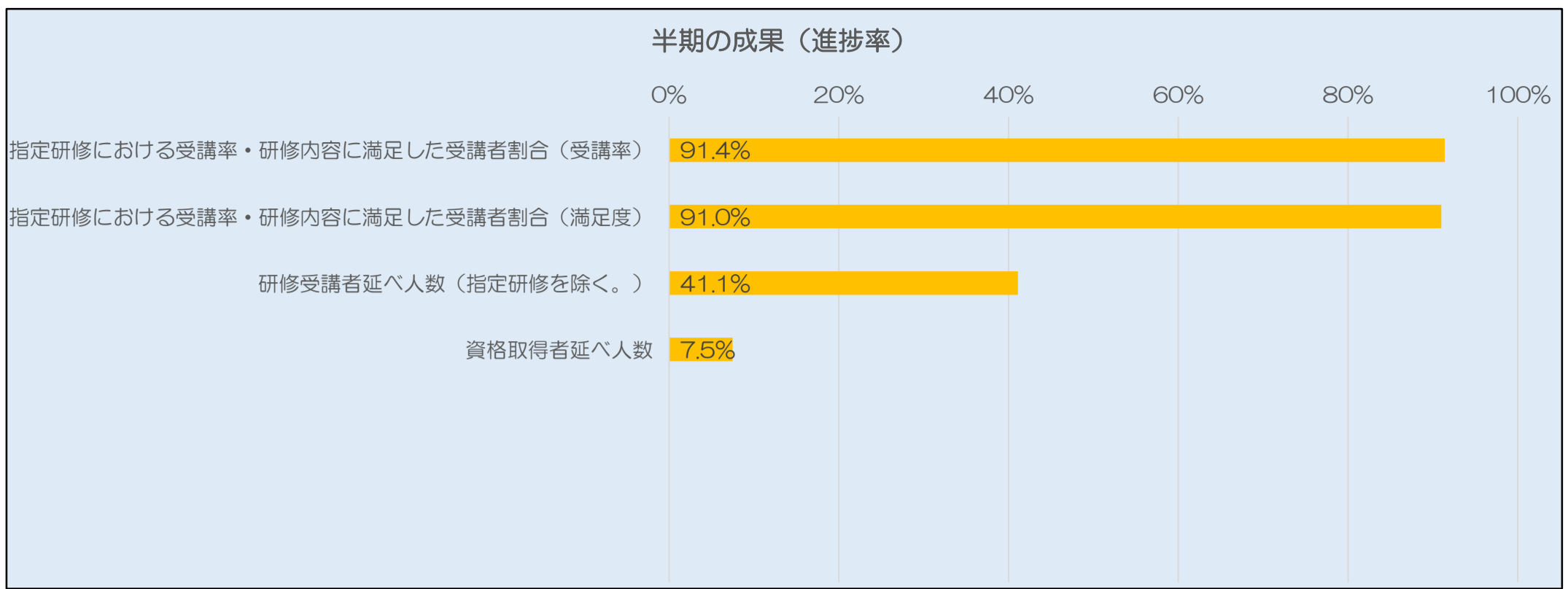
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
【産出】職員が年代ごとに公務員として身に着けるべき内容を扱う研修を受講する。 【産出】職員が役職ごとに行政運営にあたって身に着けるべき内容を扱う研修を受講する。	受講率が100%に至らない。	受講予定者の突発的な休暇や業務上の都合により、受講できないケースがあるため、受講率100%に至っていない状況。	受講できなかった者に対しては、原則として翌年度実施の研修を改めて受講指定することで、受講率100%を目指していく。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 指定研修における受講率・研修内容に満足した受講者割合（受講率）	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100%	91.4%	91.4%
② 指定研修における受講率・研修内容に満足した受講者割合（満足度）	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100%	91.0%	91.0%
③ 研修受講者延べ人数（指定研修を除く。）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	190人	78人	41.1%
④ 資格取得者延べ人数	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	40人	3人	7.5%
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ①② 指定研修においては受講率・満足度ともに100%には至らぬものの、受講対象職員の91.4%が受講し、受講した職員の91.0%が満足している状況のため、概ね予定通り進捗していると考えられる。
- ③ 指定研修以外の研修受講者延べ人数については、昨年度実績125人（上半期76人）との比較においては同等であるものの、目標値に対する進捗率は50%に至っていない状況である。研修担当課及び管理監督職からの研修機会の推奨・周知、研修に参加するための支援不足が要因と捉えている。
- ④ 資格取得者延べ人数については、想定以上に低い進捗率となっており、制度周知と機会創出の不足が要因と捉えている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
より研修受講の満足度を高め、職員に必要なスキルを高めるために必要な研修機会の拡充に努める。具体的にはメニューの見直しを含め時代に合った特別研修を強化していく。	ロジックモデルの見直しはせず、活動の内容をブラッシュアップしていく。	次年度以降	
各部署や職員からの要請に応じた職員のテクニカルスキルを高める研修機会の拡充に努める。具体的には研修担当課からの研修メニュー周知を強化していくほか、各部署の管理監督職にも職員研修の重要性を再認識させるとともに、所属職員の研修参加への支援を促すことで、職員が研修に参加しやすい環境整備に努めていく。	ロジックモデルの見直しはせず、活動の内容をブラッシュアップしていく。	今年度中	研修担当課が持つ各種研修機関の情報の庁内共有化

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

職員が業務に必要な能力や専門的知識・技術を向上させるためには、人事課が指定する研修に加え、各部署における提案型研修の実施が重要である。各部署においては、制度を積極的にご活用いただきたい。

各部署が実感する職場の現状に即した提案型研修を実施することにより、職員の専門性を高め、市民サービスの質の向上を目指していく。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	9	担当課	こども相談課	事業名	地域子育て支援センター運営経費 地域子育て支援拠点事業 いきいきふれあいプラザ管理費
施策の位置づけ	施策1-1 まちぐるみで子育てを応援する 施策の方向性 (1) 子供を生み育てやすい環境づくり 取組 ④母子の健やかな育成支援			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	①市が支援室や園庭を開放する	・土日・祝日の開館 ・開館時間の変更	年間開所日数 150日 10:00~17:00	○
産出	子育て中の親子の交流の場が提供され親子同士の交流の促進が図られる	必要な親子等の利用の維持	年間 登録者数2,407人(全) 延利用者数 15,833人	○	
産出	こどもの遊び場が提供され子どもの遊びの環境が整う	小学生利用登録の増	479人(全) 参考:利用者数 497人(全)	○	
活動	②市が子育てサークルの活動を支援する (各種イベント等を活用し保護者同士の自主的な交流を支援する)	連携事業室の設置 子育てサークルの支援	子育てサークル活動室として 連携事業室を開放した	○	
産出	子育て中の親子の交流の場が提供され親子同士の交流の促進が図られる	必要な親子等の利用の維持	年間 登録者数2,407人(全) 延利用者数 15,833人	○	
産出	こどもの遊び場が提供され子どもの遊びの環境が整う	小学生利用登録の増	479人(全) 参考:利用者数497人(全)	○	
活動	③市が専門職(保育士・保健師・管理栄養士)による育児相談を行う	保育士・保健師による育児 相談の実施	保健師等による育児相談を 実施した	○	
産出	子育ての悩みや心配事などの相談支援体制が整う	保健師相談(奇数月)、身体測定 (偶数月・月2回)	育児相談(17組) 保育士(随時) 身体計測(126組)	○	
産出	子育てに関する情報提供体制が整う	各種育児イベント等の情報 提供の実施	子育て通信(月1回)、子育て 応援サイトの活用(随時)、館 内掲示(随時)など	○	
活動	④市がHPやSNS等を活用し子育て情報を発信する	各種広報媒体の活用	子育て通信の発行、子育て応援 サイトの活用、館内掲示の実施	○	
産出	子育てに関する情報提供体制が整う	各種育児イベント等の情報 提供の実施	子育て通信(月1回)・子育て 応援サイトの活用(随時)・館内 掲示(随時)など	○	
産出	子育てに関する学びや体験の機会が提供される	親子イベントや保護者向け 講座等を開催 ・市主催事業…継続実施 ・子育て支援団体・個人、民間 企業によるイベント等…月1回 以上の実施	・管理栄養士による離乳食講座 (3回11組) ・民間企業・子育て支援団体等 によるイベント(モノづくり、 ベビーマッサージ他)…4回・ 延べ42人 ・誕生日イベント(月1回)、 英語で遊ぼう(月1回)、製作 イベント(月2回)、年齢別イ ベント(月3回)、運動会、音 楽コンサート、人形劇ほか…延 べ559人	○	
活動	⑤市が子育てイベントや講習会等を開催する	子育て支援団体・個人、民 間企業等への施設の貸出	市主催事業のほか、子育て支援 団体・個人、民間企業等によるイ ベントの開催	○	
産出	子育てに関する学びや体験の機会が提供される	親子イベントや保護者向け 講座等を開催 ・市主催事業…継続実施 ・子育て支援団体・個人、 民間企業によるイベント等 …月1回以上の実施	・管理栄養士による離乳食講座 (3回11組) ・民間企業・子育て支援団体等 によるイベント(モノづくり、 ベビーマッサージ他)…4回・ 延べ42人 ・誕生日イベント(月1回)、 英語で遊ぼう(月1回)、製作 イベント(月2回)、年齢別イ ベント(月3回)、運動会、音 楽コンサート、人形劇ほか…延 べ559人	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

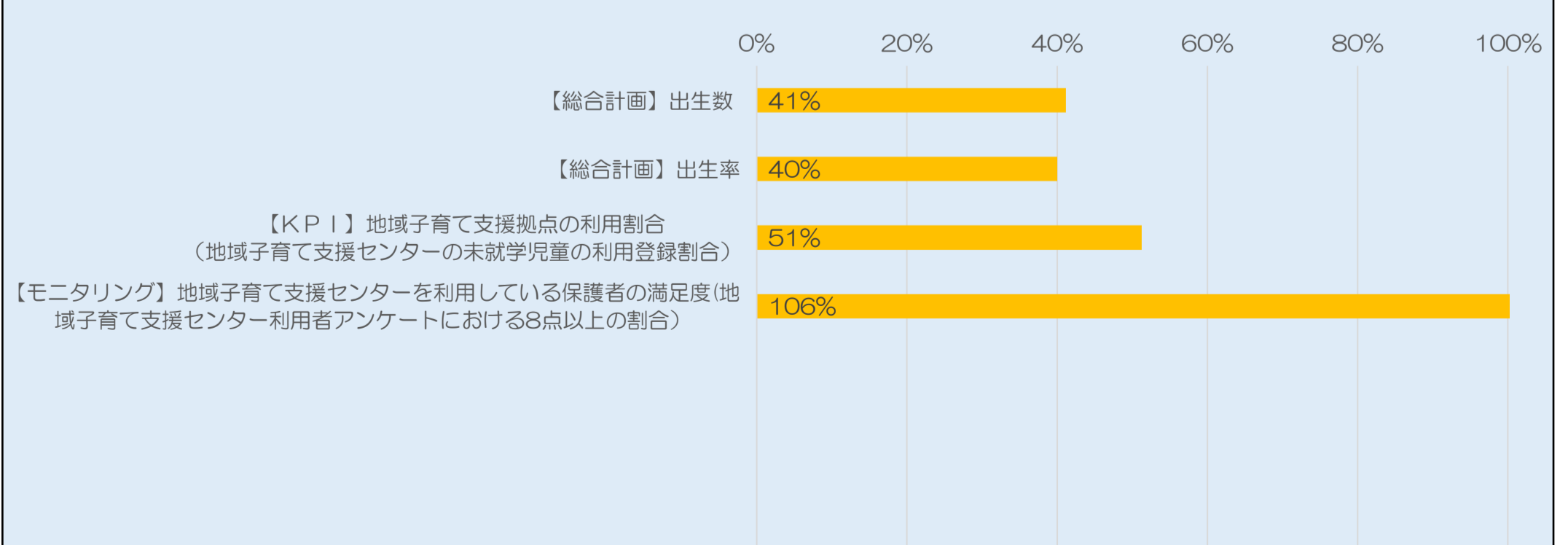
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
子育て中の親子の交流の場を提供し、親子同士の交流の促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 全登録者数（R5:513人→R6:479人 前年度同時期比93.4%） 利用者数（R5:735人→R6:497人 前年度同時期比67.6%） 利用者数が大幅に減少しており、定期的かつ継続的な利用につながらない状況がみられる。	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、開所初年度で話題性があり、登録者数、利用者数とも多くみられた。本年度は、セイビ堂ドリームパークについての把握も進み、利用が一定程度落ち着いた可能性が考えられる。 利用する中で、利用者が期待した遊具やイベントの実施、また施設利用の規約等が合わず、利用をあきらめている場合も考えられる。※例えば年齢に適した遊具がない、遊具の使用制限等（乳幼児から学童までの利用施設であることから安全面の配慮）。 	<ul style="list-style-type: none"> セイビ堂ドリームパークの周知の継続 親子の交流の促進を図る積極的な事業の企画 安全面の確保に関して、引き続き、より効果的な方法について協議を進める。
こどもの遊び場の提供と環境づくりを行う	<ul style="list-style-type: none"> 就学児登録者数479人（R5:513人→R6:479人 前年度同時期93.4%） ※参考:就学児利用者数497人（R5:735人→R6:497人 前年度同時期比67.6%） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援センターは本来乳幼児とその保護者を対象としているセンターであり、小学生に対し十分な遊びの提供の限界があるため。 年齢が異なる子どもたちが混在するため、安全面を十分に考慮すると、小学生や保護者への制約をお願いせざるを得ず、利用が遠のいている事も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全面の確保に関して、引き続き、より効果的な方法について協議を進める。 引き続き、小学生及びその保護者への理解を求める。 小学生の遊び場（居場所）の提供については、全庁的な検討が必要。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 【総合計画】出生数	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	425	175	41%
② 【総合計画】出生率	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	6.75	2.70	40%
③ 【KPI】地域子育て支援拠点の利用割合（地域子育て支援センターの未就学児童の利用登録割合）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	80.0	41.0	51%
④ 【モニタリング】地域子育て支援センターを利用している保護者の満足度（地域子育て支援センター利用者アンケートにおける8点以上の割合）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	80.0	84.9	106%
⑤						
⑥						
⑦						

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・「出生数・出生率」については、半期実績は出生数175人、出生率2.70人となり4割程度達成状況である。
- ・セイビ堂ドリームパーク（地域子育て支援センター）利用割合については41.0%と、目標値の5割程度の進捗状況である。
- ・満足度については利用者アンケートで84.9%が満足していると回答し目標値に達している。同年齢の子どもを持つ親子の交流や音楽会イベントなど利用者が求めている事業が行われていることが結果につながっていると考える。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
令和5年度の周知方法（子育て応援ハンドブック・HP・子育て通信の設置・ポスター掲示等）に加え、対象者により詳しく事業内容が分かるよう、毎月発行している「子育て通信」（行事予定記載）を保健センターで実施している9か月児育児相談・1歳6か月児健診等の機会に、施設の説明をしながら保護者へ配布した。これにより、保護者がイメージしやすく、新規利用のきっかけのひとつとなっている。引き続き、セイビ堂ドリームパークの具体的な事業内容を周知しつつ、利用促進を図っていく。	必要時、修正を行う。	次年度以降	
アンケートによる満足度を確認しながら、引き続き、遊びの充実や保護者同士の交流を意識した事業展開を図る等、利用者寄り添った子育て支援が出来るよう事業を実施していく。	必要時、修正を行う。	次年度以降	

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

セイビ堂ドリームパークは、小学生まで活用できる施設と位置付けられているものの、安全面を考慮すると乳幼児と学童が同じ空間で過ごすことは物理的・運営的にも大変厳しい状況となっている。こども（学童期）の遊び場については、今般のこども計画策定に係るアンケート調査においても要望が多い内容になっている。本市として学童期の遊び場について、どのように対応するか全庁的な検討が必要と考える。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	10	担当課	保健センター	事業名	特定健康診査等事業費
施策の位置づけ	施策3-2 予防と適切な医療により心身ともに健康に過ごす 施策の方向性 (1) 地域医療体制の充実とヘルスケアの推進 取組 (2) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進			市長政策	013 健康寿命

【プロセス評価】 ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること	評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績	
事業実施状況	活動	【特定健康診査】 (1) 対象者全員へ受診券を発送し、特定健診実施の周知を行う。 (2) 関係機関（警備会社、シルバー人材センター、人材派遣会社）等と調整し、集団健診の実施体制を整える。（予約・会場設営・当日運営等） (3) 関係機関（総合健診協会、公民館等）と調整し、特定健診の日程を確保する。	(1) 受診券発送 (2) ①実施会場の確保 (2) ②予約受付 (2) ③健診スタッフの確保 (3) ①集団健診の日程確保 (3) ②医療機関健診の会場確保	(1) 4/22に受診券9,980通発送 (2) ①R6年度分の集団健診会場確保：鹿嶋保健センター_23日、大野公民館_12日間、はまなす公民館_1日 (2) ②コールセンター（Web予約含む）設置日数（予約者数）： ・6月期分 5日+α (1,245人) ・10月期分_4日+α (1,274人) (2) ③人材派遣会社等と年間契約 ・会場設営（大野4人/日×2日） ・駐車場管理（大野・はまなす2人/日×13日） ・健診受付（4人/日×12日、3人/日×24日） (3) ①集団健診：年間36日 (3) ②医療機関健診：5~3月（県内587か所、うち市内8か所）	○
	産出	身近な場所で特定健康診査を受診できる体制が整う。	集団健診：36日 医療機関健診：R6.6月~R7.3月	集団健診：6月期_17日 (1,221人) 医療機関健診：9月まで_225人	○
	活動	(3) 関係機関（総合健診協会、公民館等）と調整し、特定健診の日程を確保する。 (4) 未受診者への2回目通知で1月期健診の予約なし日を周知する。	(3) ①集団健診の日程確保 (3) ②医療機関健診の会場確保 (4) 予約なし健診の実施	(3) ①集団健診：36日 (3) ②医療機関健診：5~3月（県内587か所、うち市内8か所） (4) 5日間程度実施予定（1月期）	○
	産出	受診しやすい集団健診の日程が設定される。 ・土日実施 ・予約なし日	・土日実施：年間4日間 ・予約なし日：5日間程度実施予定（1月期）	・土日実施：6月期_2日間、10月期_1日、1月期_1日 ・予約なし日：1月期実施予定	○
	活動	(5) 特定健診未受診者に対し、受診の必要性やメリットを伝える。 (6) MVM事業申込者のうち、健診未受診者へ受診勧奨を行う。 (7) 広報紙、HP、区長回覧など、あらゆる機会を通じて特定健診の必要性を周知する。	(5) 未受診者通知発送 (6) MVM事業利用者への受診勧奨 (7) 広報紙、HP、区長回覧等での周知	(5) 未受診者通知：1回目_8/23に8,276通発送 (6) Vitality開始者88名中、6月受診済または10月予約済41人（=未受診47人）未受診者へは受診勧奨通知発送済 (7) 広報かしま5月号・8月号、HP、区長回覧4月・8月で周知	○
	産出	市民が特定健康診査受診の必要性を理解する。	健診受診の必要性を周知する。	6月期と10月期の予約率はR5年度より増 R5：23.0%⇒R6：25.2% 6月期の受診率はR5年度より増 R5：10.6%⇒R6：12.2%	○

活動	【特定保健指導】 (8) 訪問員（管理栄養士、保健師）の雇用や、対象者抽出、保健指導計画の策定、カンファレンスの実施等、効果的な訪問指導体制の構築を図る。	①保健指導計画の策定 ②人材確保のため保健師・管理栄養士の雇用 ③保健指導対象者の抽出 ④カンファレンスの実施	①6月期分に対する計画を9月に策定し、スタッフ間で共有 ②会計年度任用職員雇用（管理栄養士2名、保健師1名） ③健診結果から各保健指導対象者抽出 ④月1回実施し、進捗確認・課題共有	○
産出	市が特定保健指導、重症化予防事業を実施する。	①特定保健指導 ②重症化予防事業	①R5年度：38.1% R6年6月期：対象者183人（積極的43人、動機付け140人）、初回の分割指導119人実施（65.0%） ②R5年度：65.2% R6年6月期：対象者201人（糖尿病113人、その他88人）	×
活動				
産出				
活動				
産出				

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

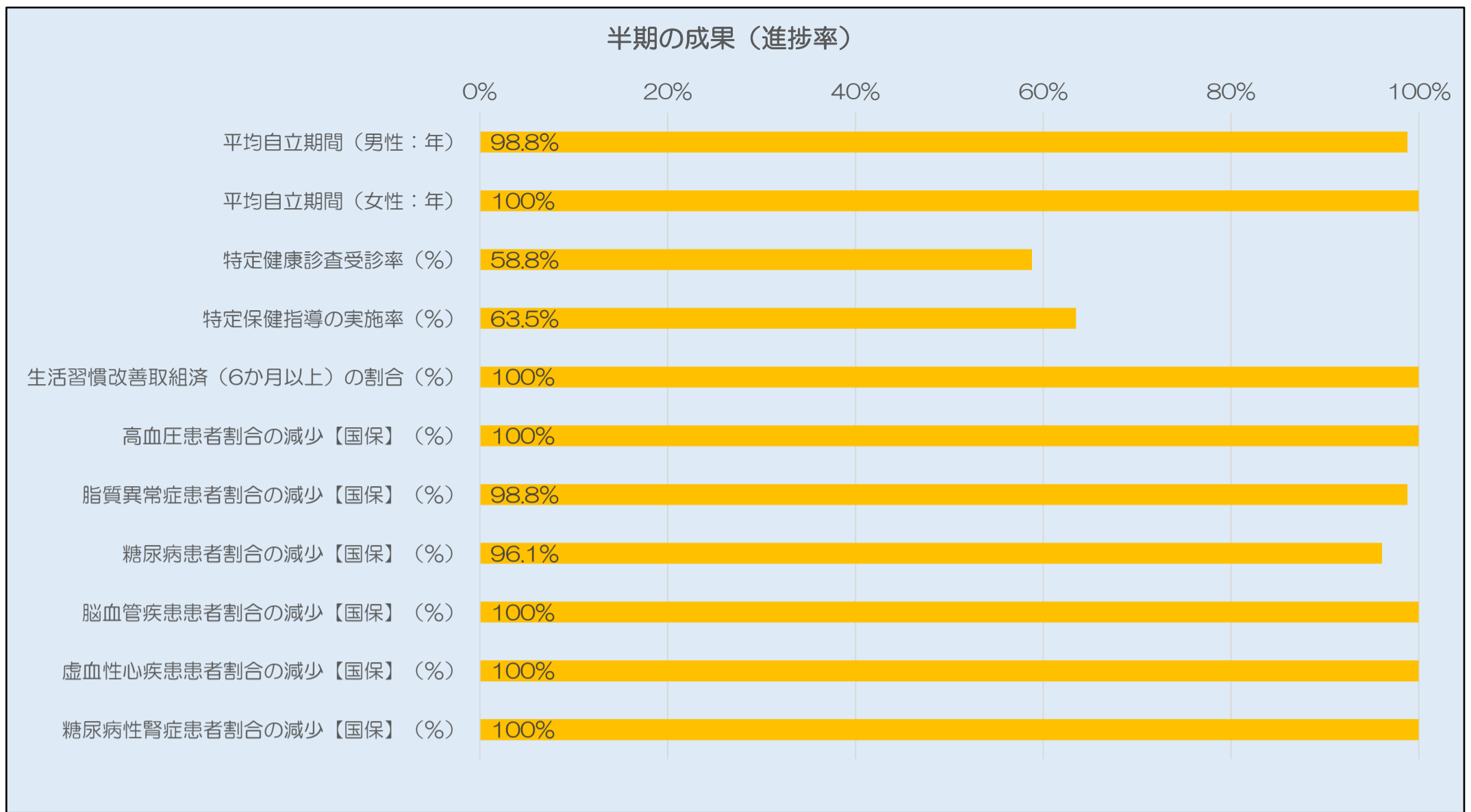
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市が特定保健指導及び重症化予防事業を実施する。	特定保健指導の指導率が目標値に達していない。	・マンパワー不足 ・スケジュール管理が不十分 ・業務の優先が「保健指導」になりにくい	・年度目標の設定 ・担当以外の職員へ協力依頼 ・目標の見える化と定期的なカンファレンスでの振り返り

【アウトカム/インパクト評価】 ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 平均自立期間（男性：年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80.0	79.0	98.8%
② 平均自立期間（女性：年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	84.0	84.4	100%
③ 特定健康診査受診率（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	60.0	【R5年度】 35.3% ※R6前期 14.5%	58.8%
④ 特定保健指導の実施率（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	60.0	【R5年度】 38.1%	63.5%
⑤ 生活習慣改善取組済（6か月以上）の割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	現状値より増加（18.7%）	19.8	100%
⑥ 高血圧患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（20.3%）	19.8	100%
⑦ 脂質異常症患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（15.9%）	16.1	98.8%
⑧ 糖尿病患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（9.8%）	10.2	96.1%
⑨ 脳血管疾患患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（5.11%）	4.6	100%
⑩ 虚血性心疾患患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（5.16%）	4.5	100%
⑪ 糖尿病性腎症患者割合の減少【国保】（%）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	現状値より減少（0.03%）	0.03	100%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- 関係機関との連携のもと、健診については滞りなく実施。コロナ禍で低下した受診率も増加傾向で、コロナ禍前に戻りつつある。今後、国が掲げる目標値（60%）にどこまで近づけられるかが課題となっている。
- 特定保健指導については、産休育休・療休など保健センター内でのマンパワー不足もあり、目標値の達成とはなっていない。しかし、大きく落ち込んだR4年度（29.5%）と比べ、R5年度は38.1%まで上昇した。R6年度分は前期の健診終了後、これから対応となるため、随時進捗を確認しながら実施していく。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
医療機関での検査結果や独自に受診した健診結果等の提出について、他市町村の状況等を踏まえながら対応方法を再検討する。	効果的かつ効率的な方法等をリサーチしたうえで、項目追加の検討を行う。	次年度以降	健診受診率が高い自治体等への情報収集
MVM事業については、保健センターの主要事業の一つである“特定健診の受診率向上対策”の一環として実施してきたものの、Vitality・Mystarともに想定よりも実際の参加者が少ない状況にあった。このため、真に効果的な受診率向上対策となっているかなど、改めての評価が必要と考える。	評価結果等を踏まえ、項目そのものの見直しを行う。	次年度以降	MVM事業の方向性について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 業務分担の内容を評価し、専門職が専門業務（保健指導）を行いやすい分担の在り方を検討する。 担当以外の職員（母子担当保健師）への協力依頼について調整する。 	必要時、修正を実施する。	次年度以降	<ul style="list-style-type: none"> 各職員が担当する業務（内容や業務量の偏り等）の評価と、その結果に基づく業務調整 新たに保健指導を実施する職員に対し、事業フロー等の共有と支援体制の確保を図る。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- MVM事業のうち、Vitalityについては、当初、保健センターとしては特定健診受診率の向上を目的に位置づけて実施（特定健診のインセンティブ、特定健診を予約した人が利用可能など）したが、受託者側としては一定数利用者を増やしたいとの意向もあり、R5年度のVitalityは、健診受診に関わらず、国民健康保険加入者であれば誰でも利用できることとした。その後、R6年度からは特定健診受診勧奨など市独自メッセージは受託者から送信しないことになり、想定との違いが生じている。また、Mystarについては、申込者が募集の4分の1程度にとどまっている状況にあり、保健センター事業とのすみわけや、今後の事業展開が難しい状況にある。
- 随時の周知に関しては、市公式SNS等を積極的に利用したいと考えているが、特に市公式LINEについては、ブロックされること等を懸念する担当課から「年代や対象が限定されている記事は配信できない」「複数回は配信できない」等の制約が多く、随時の情報を配信する手立てが限られる状況にある。全庁的な対応としての検討を行っていただきたい。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	11	担当課	保健センター	事業名	救急医療対策経費
施策の位置づけ	施策3-2 予防と適切な医療により心身ともに健康に過ごす 施策の方向性 (1) 地域医療体制の充実とヘルスケアの推進 取組 ①地域医療体制の維持・確保			市長政策	012 医師の拡充

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
活動	【初期救急】 関係機関と調整を行い、初期救急診療体制への支援を行う。 ①在宅当番医制委託 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関運営事業補助金交付	①在宅当番医制委託 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関への補助金交付	①鹿島医師会へ委託（18医療機関、年間72日実施） ②要綱制定及び医療機関への周知 ※代表市：神栖市	○
産出	・医師会が在宅当番医制構築のための経営的準備が整う。 ・各医療機関が、医療提供体制を整える経営的準備ができる。	①在宅当番医制の実施 ②鹿行南部地域夜間救急協力医療機関運営事業の実施	①34日診療、682人受診 ②R6年分は12月までの実績をもって申請となるため未定	○
活動	【二次救急】 関係機関と調整し二次救急診療体制への支援を行う。 ①二次救急告示病院救急医療強化事業補助金交付 ②鹿行南部地域病院群輪番制運営費補助金交付	①市内二次救急告示病院救急医療強化補助金交付 ②鹿行南部地域病院群輪番制補助金交付	①要綱制定及び医療機関への周知 ②要綱制定及び医療機関への周知 ※代表市：神栖市	○
産出	各医療機関が、医療提供体制を整える経営的準備ができる。	①二次救急医療提供体制の構築 ②鹿行南部地域病院群輪番制の実施	①10月以降申請受付（小山記念病院） ②鹿行管内3医療機関で実施中	○
活動	【医師確保】 茨城県と連携し「茨城県地域循環器救急医学寄付講座」開設・運営のための寄付を行う。	「茨城県地域循環器救急医学寄付講座」開設・運営のための寄付	昭和大学に寄付講座開設	○
産出	医科大学が寄付講座を開設し、市内医療機関へ循環器内科医が派遣される。	・市内医療機関に循環器内科医2名配置 ・24時間365日循環器ホットライン開設	昭和大学から循環器内科医2名派遣	○
活動	【新規医師確保】 医療機関の新規医師確保支援のための補助金交付事業を行う。	医師確保支援事業	要綱制定及び医療機関間への周知実施（10月以降申請受付）	○
産出	申請医療機関が、医師を新規に雇用する経営的準備ができる。	不足する医師確保ができる	常勤3名、非常勤2名確保（10月以降申請予定）	○
活動	【医師確保】 鹿嶋市が鹿行保健医療圏地域医療構想会議へ参画し、不足する診療科の医師派遣を「茨城県地域医療対策協議会」等へ要望する。	茨城県地域医療対策協議会へ医師派遣の要望を提出	R6要望 小山記念病院：要望できず ※要件に満たないため	×
産出	茨城県地域医療対策協議会が要望を審議する。 ※医師派遣調整のスキーム ①対象医療機関から要望調査提出 ⇒ 6月頃、鹿行保健医療圏地域医療構想調整会議で審議 ⇒ 派遣医師の要望を茨城県医療人材課へ提出 ②10月頃、茨城県地域医療対策協議会及び茨城県地域医療支援センターが、茨城県医師確保計画に基づき、「地域偏在、診療科偏在、政策医療機能等における必要性・重要性を審議」し、要望する医師数（診療科）を決定 ③筑波大学等の医師派遣大学、医師多数区域の医療機関へ医師の派遣を要望 ④医師の派遣決定 ⇒ 翌年4月から対象医療機関へ派遣	茨城県地域医療対策協議会で審議（R6年10月） ※医師の派遣決定は年度末	対象医療機関：小山記念病院 R6要望：要望できず R5要望結果（優先的に要望）：脳神経外科1⇒0.5、救急科1⇒0 ※要望外の派遣：泌尿器科1	×
活動	【看護師修学資金貸与】 看護学生就学資金貸与事業	看護学生就学資金貸与条例を制定し募集する	R7年度募集（3名）に向けた準備	○
産出	看護学生が就学するための準備ができる。	利用希望者が応募する	2名貸与開始	○

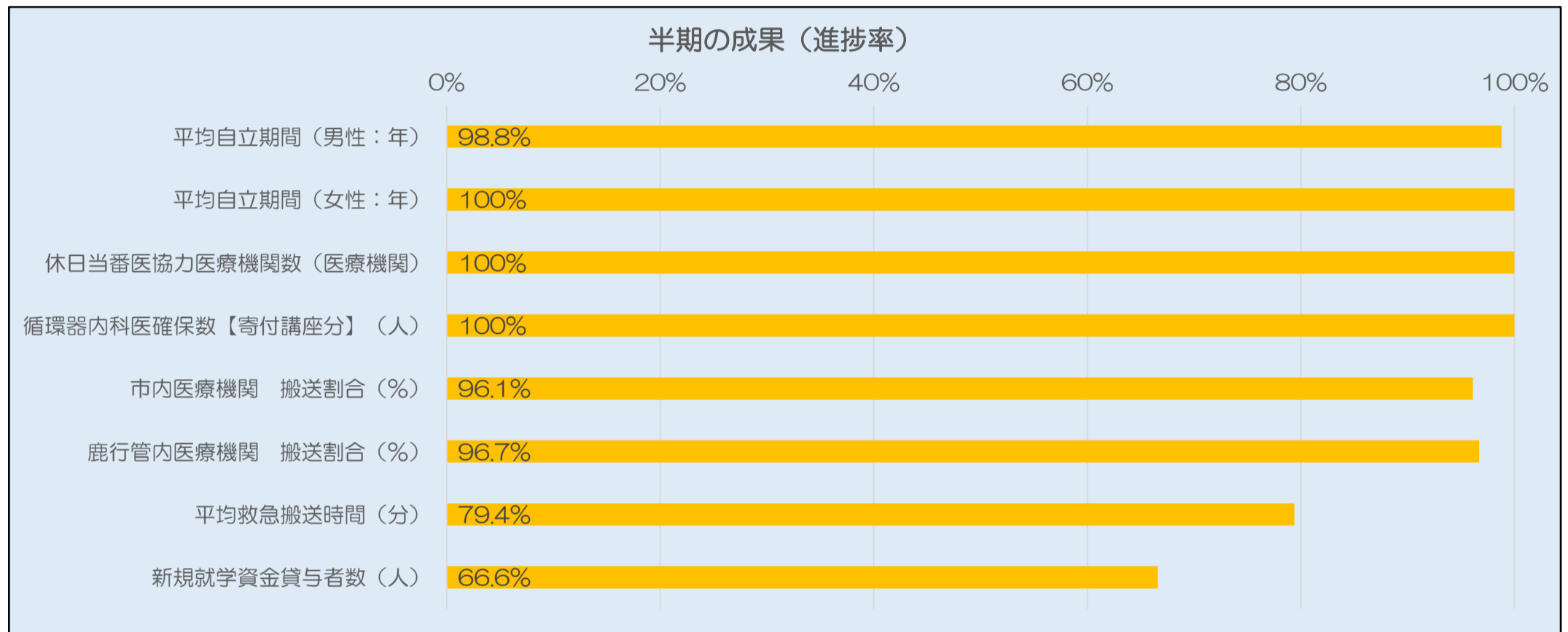
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
【医師確保】 鹿嶋市が鹿行保健医療圏地域医療構想会議へ参画し、不足する診療科の医師派遣を「茨城県地域医療対策協議会」等へ要望する。	令和6年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査実施要領において、留意事項として、筑波大学の意見が付されており、その中に「新専門医制度に対応した教育・臨調研修体制が確保されているか（特に、専攻医や若手専門医を派遣する場合にあっては、指導医がいるかなど）」とある。市内対象医療機関においては、指導医がいなかったため要望できなかった。	「限りある医療資源の効果的かつ効率的な配置及び派遣医師のキャリア形成による政策医療体制の更なる充実を図るため」という理由で要望に当たったの留意事項が示された。	鹿行管内の他の医療機関の中には、要件を満たなくても要望しているところがあるため、要件の整合性や緩和を求める。
【看護師修学資金】 看護学生が修学するための準備ができる。	利用者が定員に満たなかった。（応募2名/募集3名）	・看護学校の定員割れ（看護師養成機関において、専門学校より大学の進学率が上回っている）。 ・大学で看護師資格を取得した者は卒業後すぐに地元へ帰ってこない傾向がある。	これまで実施した近隣市の高等学校への資料郵送に加え、市内の高等学校や県内看護学科がある大学への周知活動について検討する。

【アウトカム/インパクト評価】 ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 平均自立期間（男性：年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80.0年	79.0	98.8%
② 平均自立期間（女性：年）	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	84.0年	84.4	100%
③ 休日当番医協力医療機関数（医療機関）	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	現状維持	18	100%
④ 循環器内科医確保数【寄付講座分】（人）	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	2人	2	100%
⑤ 市内医療機関 搬送割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	現状値より増加 (51.8%)	【R5年】49.8%	96.1%
⑥ 鹿行管内医療機関 搬送割合（%）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	現状値より増加 (82.0%)	【R5年】79.3%	96.7%
⑦ 平均救急搬送時間（分）	↓	フロー指標 単年度増減型	最終成果	43.3分	【R5年】54.5分 【中央値】47分 【最頻値】42分	79.4%
⑧ 新規就学資金貸与者数（人）	→	フロー指標 単年度増減型	産出	3人	2	66.6%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・医師確保について、本市の人口10万対医師数（R4年）は177.3人で、県との比較は35人差であるものの、この間確実に縮小している。なお、参考値として医師確保支援補助金を開始したH22年からは、人口10万人対で48.7人増である。
- ・搬送先については、コロナ後のR4年以降は、市内（R4：40.9%⇒R5：49.8%）、管内（R4：78.6%⇒R5：79.3%）ともに増加傾向にある。しかし、目標値としたR3年は、コロナ禍で救急搬送数自体が少なく、市内・管内への搬送割合が多かったため、当該年と比較すると、市内（R3：51.8%⇒R5：49.8%）、管内（R3：82.0%⇒R5：79.3%）ともに少ない状況にあった。
- ・救急搬送時間は、市の現状は延伸（R1：49.6分⇒R5：54.5分）しており、目標値であるR3年の茨城県の値には至っていないものの、最頻値を見るとR3年の県平均より短縮している。なお、市と同様に国や県の救急搬送時間は延伸しているが、その差は短縮（県との差…R1：6.3分⇒R4：5.0分、国との差…R1：10.1分⇒R4：6.1分）してきている。

【セオリー評価】 目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
本市の医療体制の充実、各医療機関の取組みによる成果が大きく、市としては、引き続き現行の支援体制（補助金等）を維持・継続していくことが必要と考える。	医療機関等との情報共有の中で、必要な修正を実施する。	次年度以降	予算・人員共に現状のまま問題なし。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- ・本市における、医療体制の充実の医療従事者（医師及び看護師等）の確保については、各医療機関の永年にわたる自助努力に依存するところが大変大きい。市の取組み（運営に係る一部補助等）だけで成果が得られるものではないことから、今後も医療機関との意見交換や連携を密にし、相互に対応に努めていく必要がある。
- ・市民に対し、医師数等の正確な情報や、救急車の適正利用について周知するため、広報かしま9月号に特集記事を掲載した。引き続き可能な限りの媒体を活用し、周知に努めていくものとする。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	12	担当課	環境政策課	事業名	地域省エネ事業
施策の位置づけ	施策4-3 豊かな鹿嶋の海や緑を未来へつなぐ 施策の方向性 (1) 地球環境に配慮した持続可能なまちづくり 取組 ①脱炭素への取組と気候変動への適応			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が太陽光と連携した蓄電池補助金を市民へ募集する	補助金の募集	応募35件	○
産出	蓄電池を採用したい人が増えるきっかけづくりになる	蓄電池普及のポジティブな反応	補助19件	○	
活動	市が鹿嶋市環境基本計画を策定し情報を発信する	HPIによる周知・PR	基本計画策定時にHPで周知済	○	
産出	鹿嶋市の環境に関する取り組みがビジュアル化される	炭素排出量削減の普及	鹿嶋市域排出量カルテ1,776t		
活動	市が環境展、省エネキャンペーンなどの啓発活動を実施する	環境展・省エネキャンペーン活動	環境展での意識啓発	○	
産出	啓発活動により、省エネに取り組む機会が提供される	省エネ意識の向上	省エネクイズ回答者600人	○	
活動	市は省エネに関する職員研修を実施する	市職員への研修	11月19日実施予定（東電）		
産出	職場内における研修が行われる	研修による意識の向上	省エネ職員研修会50人予定		
活動	市が鹿嶋市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定する	市施設排出量の公表	上半期の排出量を施設担当課へ依頼	○	
産出	策定内容が職場内に提供される	市施設排出量の調査を実施	測定結果の集約（公表予定）	○	
活動	市が公共施設で導入可能な再生可能エネルギーや補助金等の情報提供を行う	関係課へのヒアリング	市施設管理担当課とのヒアリング		
産出	職員は再エネに関する国の補助金等を考える機会が提供される	再エネ導入の意識向上	上半期集計後、施設管理担当者とヒアリングを実施（予定）		

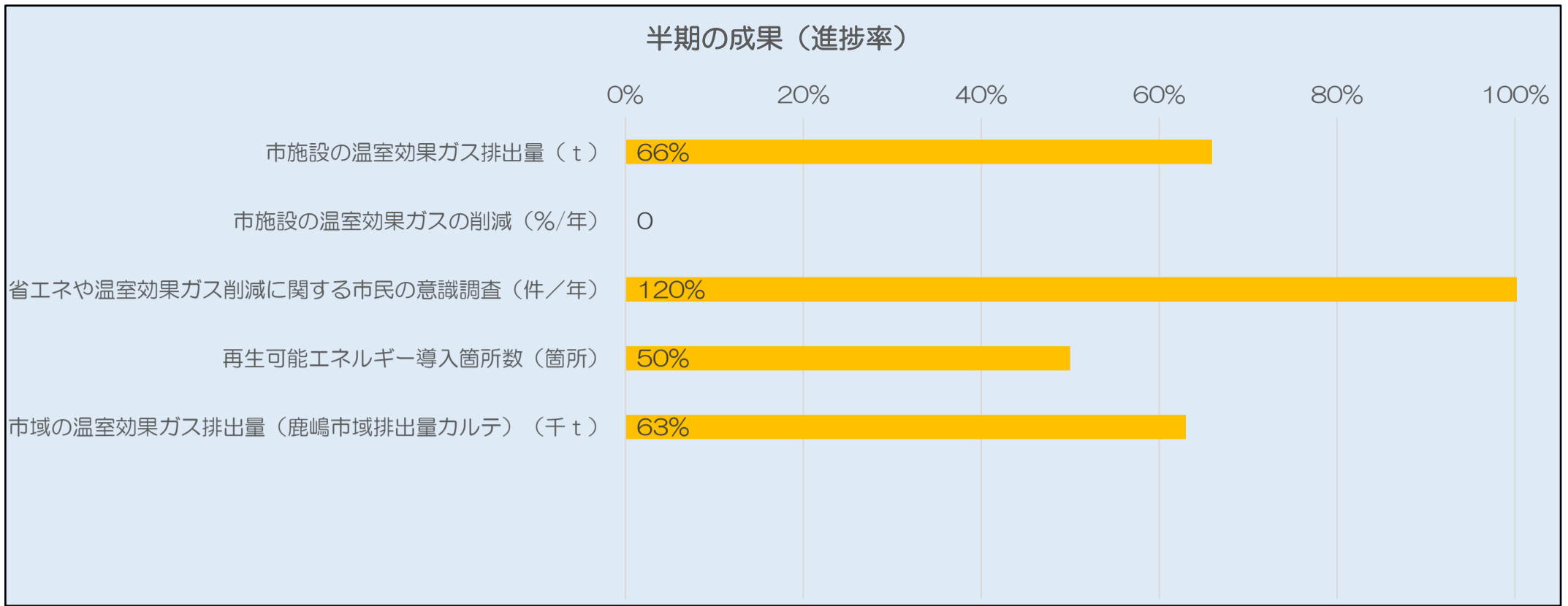
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
策定内容が職場内に提供される	全体的に電気使用量は減少しているが、猛暑の影響により冷房使用に係る燃料使用が増加したため予定どおり進捗しなかった。	鹿嶋斎苑（火葬場）の利用件数の増やスポーツセンターでのイベントが8月に重なったため	再エネの導入効果を検証し、未導入施設へ「エネオク」の積極的な活用を促す。関係課とのヒアリングにより詳細を分析する。
市が鹿嶋市環境基本計画を策定し情報を発信する	計画に対する市民の反応や取り組みが捉えにくい	市民の関心度や取組状況を確認する具体的な手段がない。	各家庭での省エネに関する取り組みを把握するための手法を模索・検討する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 市施設の温室効果ガス排出量（t）	↘	フロー指標 単年度増減型	中間成果	4,372	2,883	66%
② 市施設の温室効果ガスの削減（%/年）	↘	フロー指標 単年度増減型	中間成果	△4	-	-
③ 省エネや温室効果ガス削減に関する市民の意識調査（件/年）	↗	フロー指標 単年度増減型	中間成果	500	600	120%
④ 再生可能エネルギー導入箇所数（箇所）	↗	ストック指標 成果累積型	最終成果	23	22	50%
⑤ 市域の温室効果ガス排出量（鹿嶋市域排出量カルテ）（千t）	↘	フロー指標 単年度増減型	最終成果	1,126	1,176	63%
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・省エネや温室効果ガス削減に関する市民の意識調査については、鹿嶋まつりで環境展を実施し、来場者600人に対してクイズ形式により家庭でできる省エネや環境負荷に関する意識啓発を行った。
- ・再生可能エネルギー導入箇所数については、浄化センター敷地内に大規模な自家消費型の太陽光パネル（オンサイトPPA）を設置工事を進めており、今年度末の完成を見込んでいる。
- ・市域の温室効果ガス排出量（鹿嶋市域排出量カルテ）については、環境省がリリースする炭素排出量カルテの数値を用いているが、最新のデータが更新されていないため、前回と同様の数値を用いている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
公民館事業や学校授業を通して、市民向けにできる省エネについて学習する機会を提供する。		次年度以降	省エネに関する市民向けの資料を分かりやすい作成する。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

職員が温室効果ガス削減の取組みを理解するため、庁内研修への積極的な参加と庁内周知を強化する。
 民間事業者が実施する地域内のCO₂削減の取組内容を参考に、事業の見直しを検討する。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	13	担当課	ふるさと納税戦略室	事業名	ふるさと納税推進事業
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 ③安定した財源確保と新たな自主財源確保の工夫			市長政策	005 ネット販売支援（ふるさと納税） 026 ふるさと納税の刷新

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
活動	他自治体動向・過去のデータなどを参考に打ち手を検討する	データに基づく施策の実施 他自治体の返礼品分析	ページ閲覧数・寄附転換率・広告費用対効果向上施策、検索エンジン最適化対策等実施	○
産出	市や委託業者が新たな返礼品発掘をする	新規参入事業者の増加 新規返礼品の増加	新規参入事業者20事業者 返礼品増加数255件	○
活動	市が返礼品事業者と密なコミュニケーションを図る	市内全事業者訪問 事業者説明会開催	市内事業者訪問数70件 さとふる導入説明会開催（2回：参加29事業者）	○
産出	市が返礼品事業者の意向を把握する	随時意向聴取	さとふる導入支援 返礼品（米など）在庫調整	○
活動	市が委託業者とのコミュニケーション密度を高める	緊密な連絡体制構築	Slackの導入 随時調整・指示	○
産出	市や返礼品事業者が寄附額増のノウハウを習得する		返礼品3C分析 クレーム減対策実施	○
活動	ColorfulBaseでふるさと納税戦略室アカウントを運用する	アカウント運用	市の返礼品や取り組みに興味を持たせる取組みを実施（丸三返礼品開発等）	○
産出	寄附者インサイトを獲得する		テキストマイニングによる分析結果を施策に反映	○
活動	委託業者がこまめな寄附者へのフォローアップをする	リピーターとなっただけ よう、迅速なフォローアップ	全ての寄附者へのフォローアップ	○
産出	市が高額寄附者中心にリピーター対策を実施する	メルマガ配信	メルマガ13回配信	○
活動	委託業者が掲載サイト・広告の充実を図る 市がHPやSNSやメディアを活用してPRする	掲載サイトの増加 各種SNSの開設	①さとふる②マイナビ③ふるさと納税forGood④Yahoo⑤その他を追加し全14者	○
産出	返礼品の情報が様々な媒体で発信される 返礼品の口コミが拡散する マスコミの取材を受ける	SNS運用 マスコミ取材	ツイート表示回数654,832回 新聞掲載4回	○
活動	寄附者が応援したくなる用途を作る 用途を広く周知する 寄附の活用状況を見える化させる		応援共感型クラファン実施 用途拡大（要綱改正） 決算状況の詳細公表	○
産出	—	—	—	

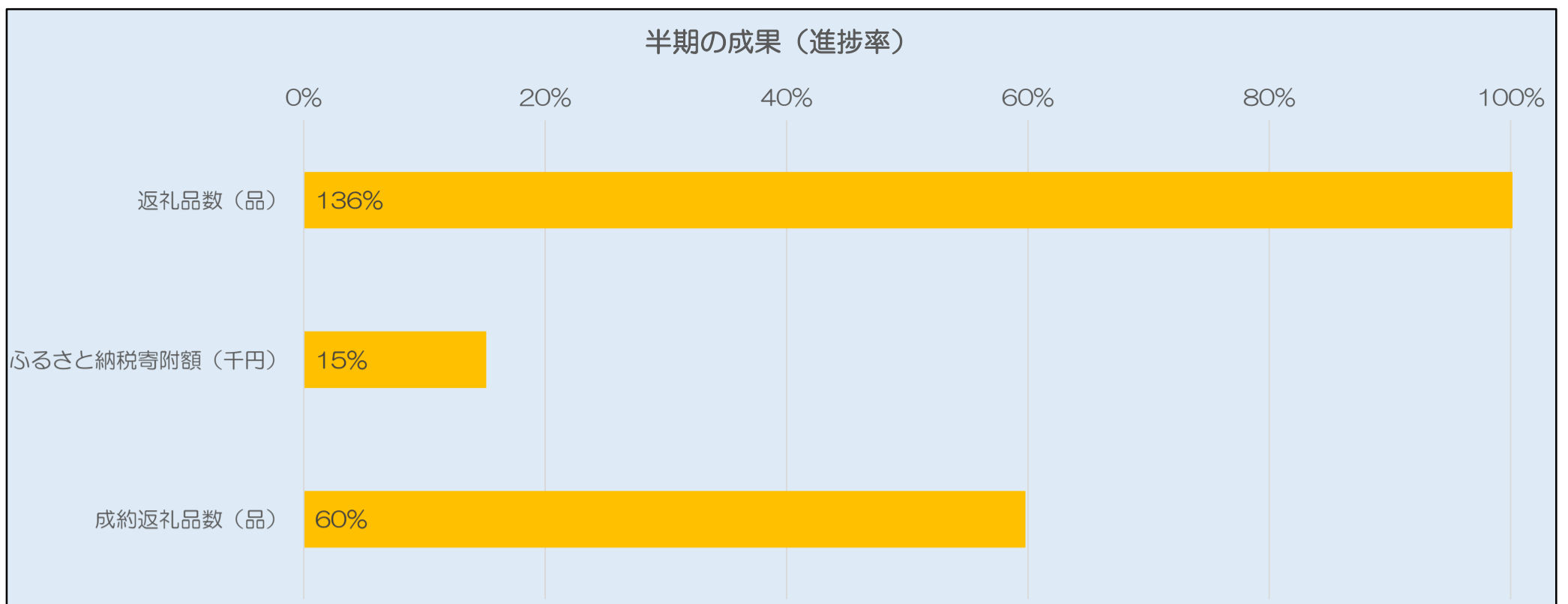
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市が高額寄附者中心にリピーター対策を実施する	メルマガ費用対効果が不安定	掲載する返礼品によってバラツキが出る	レイアウトや写真などを工夫し費用対効果が高くなる方法を検証し改善する
市が返礼品事業者の意向を把握する	さとふる返礼品の登録が少ない	返礼品登録、オペレーションが通常と異なり、抵抗感がある	事業者に参加を呼びかけ、返礼品登録を補助していく

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 返礼品数（品）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	600	817	136%
② ふるさと納税寄附額（千円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	300,000	45,375	15%
③ 成約返礼品数（品）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	495	296	60%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

ふるさと納税寄附額については、9月を除き前年度実績を上回る（昨年10月制度改正前の9月駆け込み需要あり）。前々年度と比較すると上期実績で254%となっており、前々年度最終寄附額×254%は292,072千円となる。12月のピークに向け、3つのプロジェクト（中学生考案返礼品の実現、新規返礼品ネーミング・パッケージデザイン募集・応援共感型クラファン）を実施し、寄附の積み増しを図る。

前年度比 4月107% 5月146% 6月173% 7月283% 8月212% 9月 53% 上期実績102%
 前々年度比 4月113% 5月149% 6月200% 7月258% 8月412% 9月564% 上期実績254%

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
事業を継続し、見直しなし ∵現時点で実績が出ているため			

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

応援共感型クラファンは、個人版ふるさと納税と同時に企業版ふるさと納税を募集できる仕様（オプション）にしている。企業版ふるさと納税は財政課所管のため、庁内各課への周知だけでなく、歳入確保のために積極的な企業への営業活動を行っていただきたい。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	14	担当課	商工観光課	事業名	広域観光対策事業
施策の位置づけ	施策4-1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 (1)観光業のチャレンジ推進 取組 ③スポーツツーリズム等の充実			市長政策	019 歴史探究ツーリズム

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が観光に関する情報を収集し、発信する。	商工観光課公式Instagram 50件投稿	35件投稿	○
産出	市内外の人に鹿嶋市の情報が伝わる	Instagram閲覧回数15万回	閲覧回数約6万回	○	
活動	市がフィルムコミッション事業で撮影隊を受け入れる	撮影隊の受入れ	7件受入れ	○	
産出	市がロケ地として認知され、テレビ番組等が放送される	市内紹介テレビ番組3件（目標）	市内紹介テレビ番組2件放送	○	
活動	市がテレビ局や制作会社、他自治体にヒアリングする	メディアに市の情報を提供	受入れ事業者へのヒアリング4件	○	
活動	市がテレビ局や制作会社に番組制作を働きかける	メディアに市の情報を年4回提供	提供内容を検討中	×	
産出	市内の観光スポットや飲食店を紹介するテレビ番組等が放送される	市内紹介テレビ番組3件（目標）	市内紹介テレビ番組2件放送	○	
活動	市や東国水郷観光推進協議会がモニターツアーを実施する	モニターツアーの実施	プロポーザルによる公募を実施	○	
産出	インフルエンサーがPRする	インフルエンサーが市について1回投稿	公募中。各市1回投稿を仕様書に掲載。	×	
活動	市がイベントを実施する	イベントを実施	海水浴場の開設（今年新たに水鉄砲及びキッチンカーイベントを実施）	○	
産出	市外からイベントを目的に人が来る	観光入込客数200万人目標	海水浴場入込客数37,558人	○	
活動	市がDMOと定期的に課題共有する	2カ月に1回、状況確認を行う	3回実施	○	
産出	DMOがサッカー中心に合宿客を呼び込む	スポーツ合宿の宿泊者数8,000人目標	スポーツ合宿の宿泊者数5,401人	○	

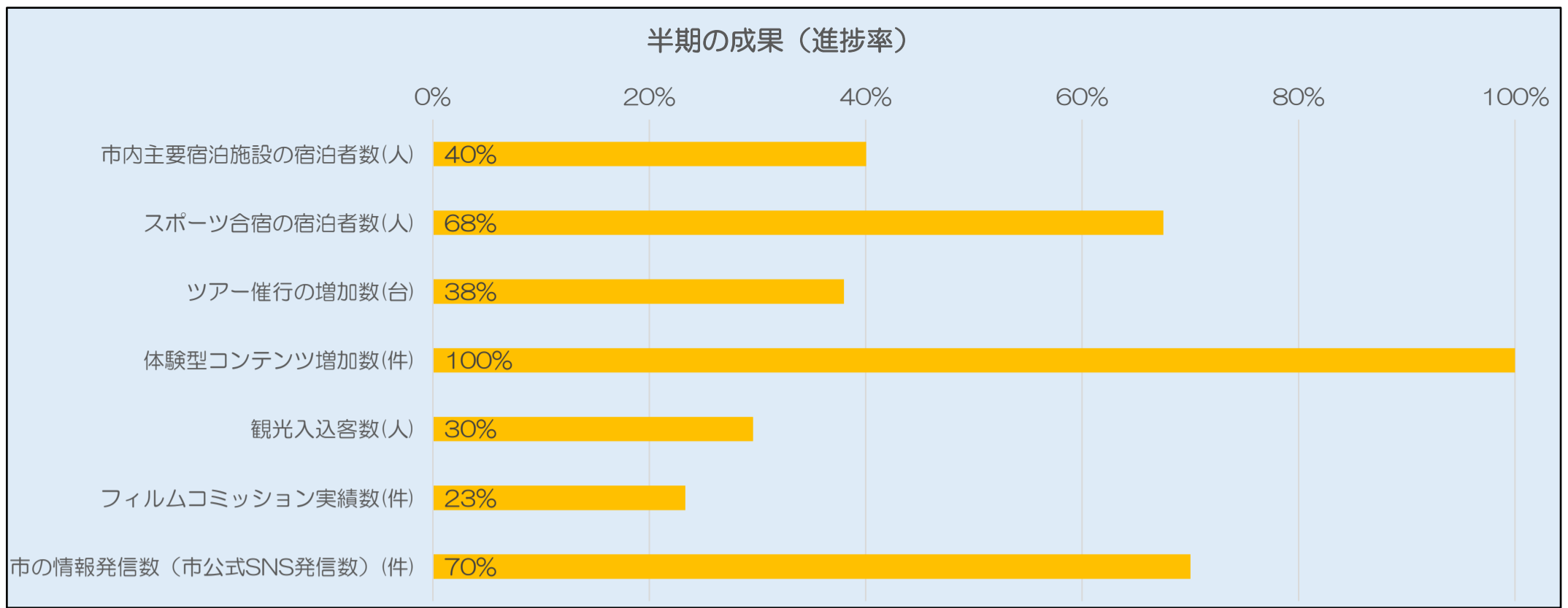
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市がテレビ局や制作会社に番組制作を働きかける	受入れ事業者へのヒアリング4件実施	働きかけについては初めて実施するため、提供内容を検討中。	ヒアリング内容を参考にしながら、提供内容を作成する。様々手法を検討し、まずはチャレンジしていく。
インフルエンサーがPRする	東国水郷観光推進協議会によるプロポーザル公募を実施	9月に公募を開始し、10月には事業者選定予定	事業者を通してインフルエンサーを選定し各市のPRを1回実施する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 市内主要宿泊施設の宿泊者数(人)	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	120,000	48,046	40%
② スポーツ合宿の宿泊者数(人)	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	8,000	5,401	68%
③ ツアー催行の増加数(台)	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	50	19	38%
④ 体験型コンテンツ増加数(件)	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	10	10	100%
⑤ 観光入込客数(人)	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	3,000,000	887,813	30%
⑥ フィルムコミッション実績数(件)	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	30	7	23%
⑦ 市の情報発信数（市公式SNS発信数）(件)	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	50	35	70%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

商工観光課公式Instagramを開設し、順調に情報を発信している。また、フィルムコミッション受入事業者のヒアリングを行い、制作会社の考え方などを知ることができたものの、番組制作の働きかけについては様々な手法を検討し、まずはチャレンジしていく。

【セオリー評価】 目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
上半期に事業全体を見直したため、ロジックモデルについては見直ししない。			-

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	15	担当課	商工観光課	事業名	商工業振興事務経費 チャレンジショップ支援事業
施策の位置づけ	施策4-1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 (3) 商工業のチャレンジ促進 取組 ③起業・創業体支援体制の充実			市長政策	004 チャレンジショップ

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が既存店の情報発信を支援する	Instagram活用セミナー4回開催	Instagram活用セミナー3回実施	○
産出	SNSを活用して情報発信する事業者が増える	セミナー出席者のうち情報発信に慣れた事業者数の割合50%	事業者の割合計測はセミナー終了後に実施	×	
活動	市がチャレンジショップ補助金を交付する	2件交付	交付決定2件	○	
産出	補助事業者が資金の一部を調達できる	2件の出店	2件とも出店準備中	○	
活動	市と商工会が金融機関と連携する	中小企業に資金融資をあっせん	自治金融審査会で承認12件実行	○	
産出	事業者が資金を借り易くなる	融資を実行した事業者に保証料補給補助金を交付	12件145万円を交付	○	
活動	市が中活計画内の空き店舗を把握する	随時空き店舗の相談を受ける	商工会や市内事業者と連携して空き店舗や家主の意向について情報収集している。	○	
産出	事業者が空き店舗を借りやすくなる	空き店舗の解消2件	チャレンジショップ2件出店予定	○	
活動	市が経営アドバイスを行う商工会を支援する	経営相談の受付	経営相談随時対応	○	
産出	出店希望者が経営ノウハウを学べる	創業スクールによるノウハウの提供	創業スクール4回6人、Web版5人参加	○	
活動	市と商工会が商い元気塾の支援	創業セミナーの開催	創業セミナー1回実施、5人参加	○	
産出	出店希望者が経営ノウハウを学べる	創業スクールによるノウハウの提供	創業スクール4回6人、Web版5人参加	○	

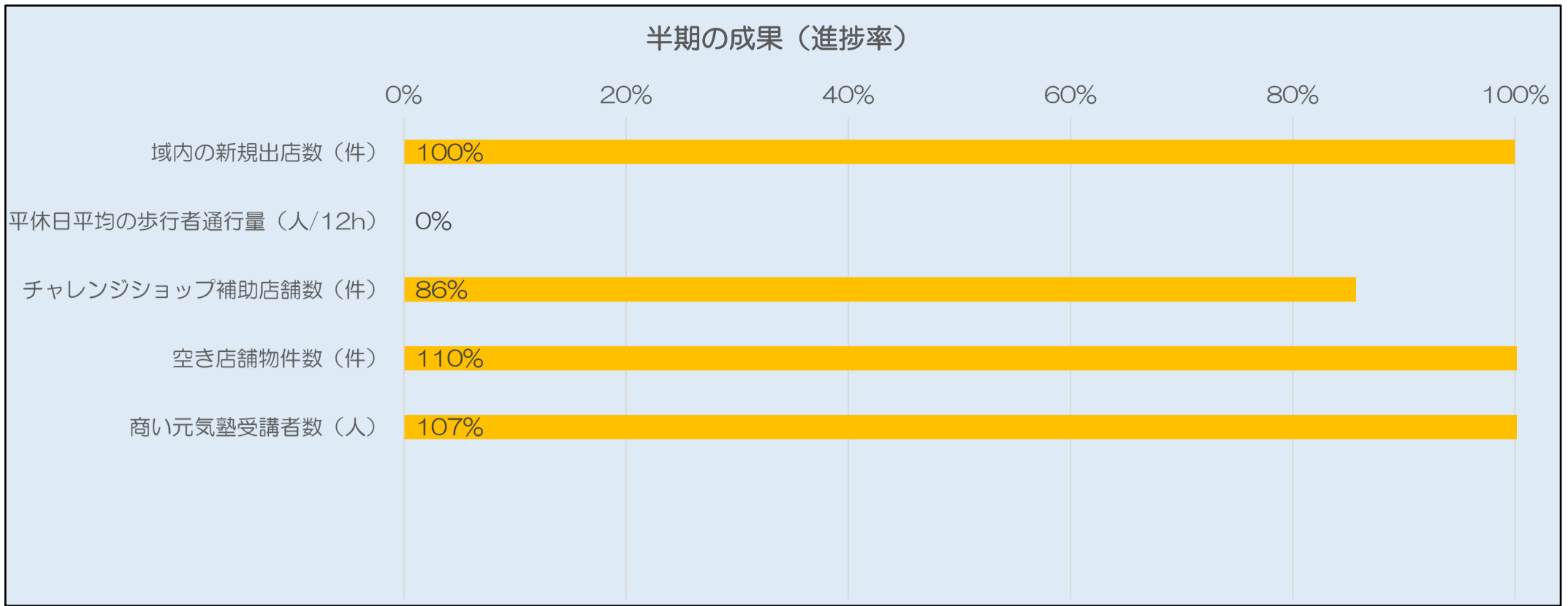
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
SNSを活用して情報発信する事業者が増える	Instagram活用セミナー終了後に計測を予定	Instagram活用セミナーを全4回のうち3回開催した。	お客が事業者のSNSをフォローしたことに対して、事業者が割引を実施する。それを補助することで、発信事業者を把握する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 域内の新規出店数（件）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	14	14	100%
② 平休日平均の歩行者通行量（人/12h）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	4,260	0	0%
③ チャレンジショップ補助店舗数（件）	↑	ストック指標 成果累積型	活動	14	12	86%
④ 空き店舗物件数（件）	↓	ストック指標 成果累積型	活動	-10	-11	110%
⑤ 商い元気塾受講者数（人）	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	15	16	107%
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

令和2年度から開始したチャレンジショップ補助事業により新規出店が増え、空き店舗解消につながり、概ね成果が出ていると考える。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
次年度に向け、箱型チャレンジショップを含めた事業について年度内に制度設計を行う。	活動に「市が箱型チャレンジショップ事業を行う」を加える。	今年度中	箱型チャレンジショップ事業費について、R7予算に計上

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	16	担当課	農林水産課	事業名	農業振興事業
施策の位置づけ	施策4-1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 農水産業のチャレンジ促進 取組 ①新たな担い手の育成・支援			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が農業委員・農地利用最適化推進員及びJAと連携した情報収集及び情報発信を行う	農地利用最適化推進委員意見交換会への参加	意見交換会での地域の担い手等の現状把握依頼・情報収集 4回 JAと連携した情報発信 随時	○
産出	市への新規就農相談者が増加	銚田地域農業改良普及センターと連携した相談業務	新規就農相談者 3名	○	
産出	市への認定農業者認定相談者が増加	認定期間終了者への更新相談及び新規認定相談	認定更新10名、新規認定4名、新規認定相談4名	○	
活動	市が農地中間管理機構を活用した利用権設定を推進する	利用権設定に対する中間管理機構活用推進 二者間の利用権設定者で契約期間満了者への案内通知	利用権設定相談者に対する中間管理機構活用誘導 4月～9月の案内通知送付数 28筆	○	
産出	農地貸付希望者から農地中間管理機構への農地貸付が増加する	二者間の利用権設定者で契約期間満了者の中間管理機構活用への移行	4月～9月の中間管理機構活用への移行数 41筆	○	
活動					
産出					
活動					
産出					
活動					
産出					

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

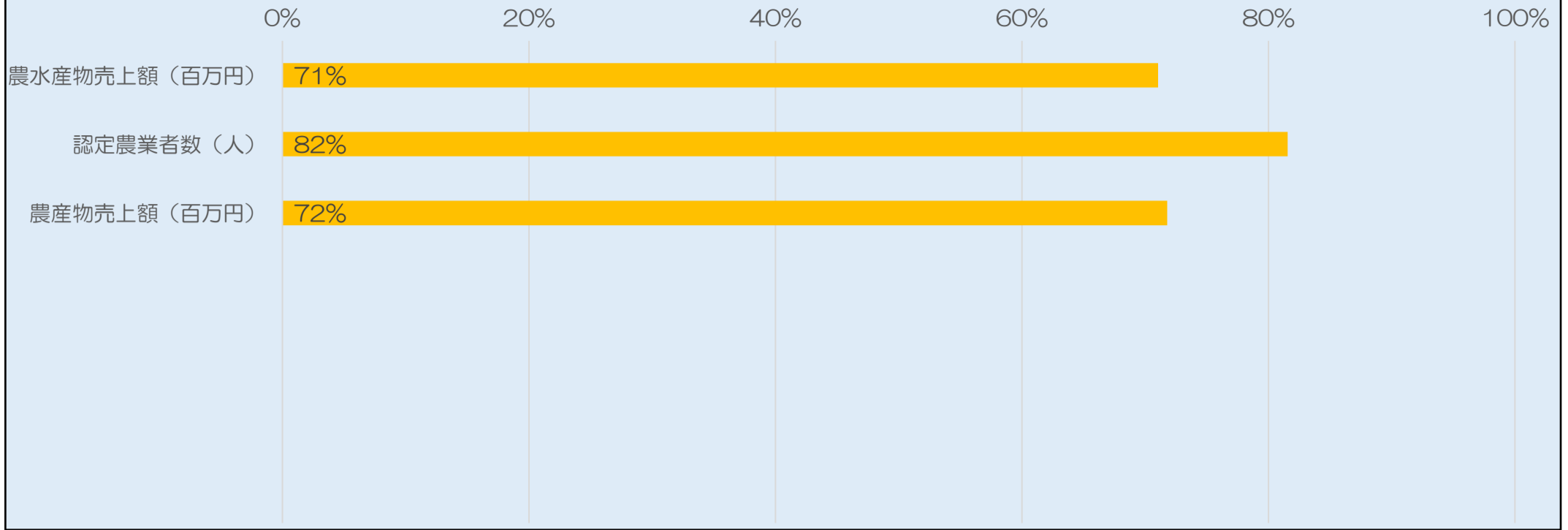
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 農水産物売上額（百万円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	2,400	1,705	71%
② 認定農業者数（人）	↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	141	115	82%
③ 農産物売上額（百万円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	1,450	1,041	72%
④						
⑤						
⑥						
⑦						

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

農産物売上額については、農業者数が減少しており、高温などの気候変動の影響はあるが、栽培技術の向上などにより収量、単価の向上が図られており、前年比は微増となっている。
 認定農業者数については、新規認定者が4名となったが、高齢等により認定更新しない農業者もあり、前年比3名増となっている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
次年度へ向け、農水産物（畜産を含む）のブランド化推進事業について年度内に制度設計を行う。	活動に「市が農水産物（畜産を含む）のブランド化の推進に対して支援を行う」を加える。	今年度中	農水産物のブランド化推進について、R7年度予算に計上

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	17	担当課	道路建設課 施設管理課	事業名	幹線道路整備事業 交通安全対策特別交付金事業 道路維持補修費
施策の位置づけ	施策5-1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (4) 日常のリスクに備えるまちづくり 取組② 交通安全対策の充実			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が補助事業の対象となるよう、県と調整を行う	新規整備路線である0157号線について県と協議実施	R5実施済み	
産出	協議路線が補助採択を受ける	0157号線の補助金交付申請を行う	R5採択済み		
活動	市が地元説明会の周知・開催を行う	新規整備路線である0157号線について地元説明会実施	R5実施済み		
産出	地元住民が事業を理解し、事業への協力が得られる	0157号線事業反対申出者0件	0157号線事業反対申出者4件		×
活動	市が用地測量業務・詳細設計、用地買収（物件補償）及び工事を実施する	・0151号線の工事発注 ・0157号線の用地測量及び設計の発注	0151号線工事R6.7.17~R6.12.13 0157号線用地測量R5.7.28~R6.7.26 0157号線詳細設計R5.9.8~R6.10.1		○
産出	対象路線の事業が進捗する	・武井地区(0151号線)：工事130m工事中 ・荒野地区(0157号線)：境界立会184件	・武井地区(0151号線)：工事130m工事中 ・荒野地区(0157号線)：境界立会170/184件		○
活動	市が現場パトロールにより補修の必要な箇所を発見する	要望内容の整理、対応	要望受付=855件（R6d受付分）		○
産出	市道（道路、側溝等）が修繕及び整備される	道路・側溝等所管施設の修繕、整備	5ブロック対応維持補修工事および維持工事49件を発注		○
活動	市が要望内容を整理して、工事を発注する	要望内容の整理、対応	要望受付=855件（R6d受付分）		○
産出	市道（道路、側溝等）が修繕及び整備される。	道路・側溝等所管施設の修繕、整備	5ブロック対応維持補修工事および維持工事49件を発注		○
活動	市が地区、市民及び関係機関（国、県、警察、学校など）から補修の必要な箇所の要望を受ける	要望内容の整理、対応	要望受付=81件（R6d受付分）		○
産出	交通安全施設（白線、ガードレール、カーブミラー等）が修繕及び整理される	交通安全施設の修繕、整備	区画線設置 2件の工事を発注		○
活動	市が要望内容を整理して、関係機関（国、県、警察、学校など）と情報連携を行う	要望内容の整理、対応	要望受付=81件（R6d受付分）		○
産出	交通安全施設（白線、ガードレール、カーブミラー等）が修繕及び整理される	交通安全施設の修繕、整備	区画線設置 2件の工事を発注		○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

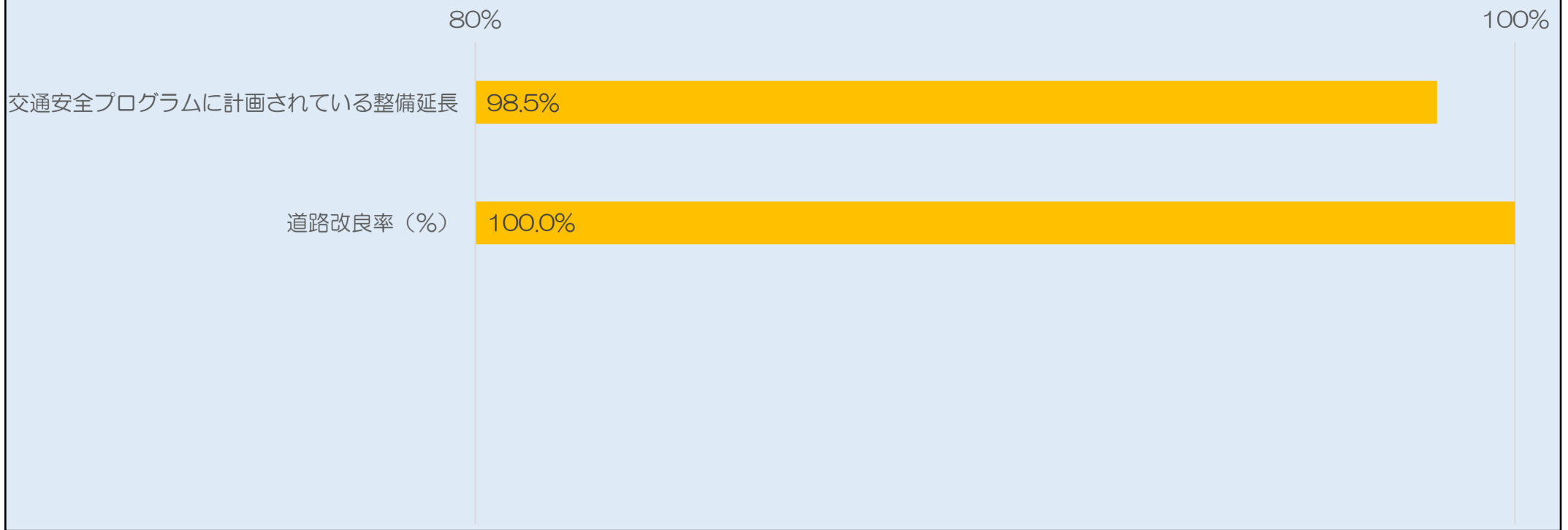
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
産出の「地元住民が事業を理解し、事業への協力が得られる」について	数名が事業に反対申し出がある	住んでいる家や駐車場が買収対象であるため	粘り強く交渉していく

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 交通安全プログラムに計画されている整備延長	↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	9,000	8,873	98.5%
② 道路改良率（%）	↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	54.5	54.5	100.0%
③						
④						

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

交通安全プログラムに計画されている整備延長は、路線の用地買収期間は工事が出来ないことから整備実績に反映されず、成果がわかりにくい状況にある。用地交渉・用地買収は粘り強く進めているが、不在地主等も多く、用地買収には一定の期間を要しており、非常に苦慮している。道路改良率が目標達成となったが、そもそも目標値の54.5%の数値については、県内では良い方であるものの、全国的には低い設定である。また事業としては予算に左右されやすいものの、すべての道路を舗装する必要性もあるとは考えてはいないため、どこまで計画するかが課題である。
 R4.3.31全国62.8% 茨城県44.0%（国県道含む） 茨城県内市町村道40.8%

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

0151号線については、用地買収困難地が3筆存在するため、「法線変更」か「既存法線のまま用地買収継続」かの検討を行っているが、今年度中に判断をしていく。どちらの場合でも、追加用地買収費や設計変更費は単費での対応となるため、財政部局を含め慎重に協議していきたい。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	18	担当課	下水道課 水道課	事業名	市街化区域のインフラ整備率（下水道） 雨水排水路整備延長（荒野台地区） 配水管の更新延長
施策の位置づけ	施策5-1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性（1）最適化した土地利用・基盤づくり 取組③ 暮らしを支える上・下水道等の維持・整備			市長政策	006 生活インフラ修繕補修

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が汚水管路の整備工事を発注する	管路の整備：1,000m	管路の整備：705.9m	○
産出	市街化区域内の汚水管路の整備延長が延伸される	管路：1,000m	管路：705.9m	○	
活動	市が汚水管路・施設の修繕及び維持管理工事を発注する	破損、清掃など、随時対応を行う。	随時対応契約数6件	○	
産出	市街化区域内の衛生環境が維持される	衛生環境を維持する	衛生環境が維持された	○	
活動	市が雨水管路等の整備工事を発注する	調整池の整備	調整池の整備	○	
産出	荒野台地区内の雨水管路の整備が進捗する	調整池の整備が進む	調整池の工事が進む	○	
活動	市が地区や学校と工事調整を行う。	調整池の整備	調整池の整備	○	
産出	荒野台地区内の雨水管路の整備が進捗する	調整池の整備が進む	調整池の工事が進む	○	
活動	市が宮中・平井地区の老朽管の更新工事を発注する	老朽管更新延長 L=260m	老朽管更新延長 L=264m	○	
産出	宮中・平井地区の老朽管が更新される	老朽管更新延長 L=260m	老朽管更新延長 L=264m	○	
活動					
産出					

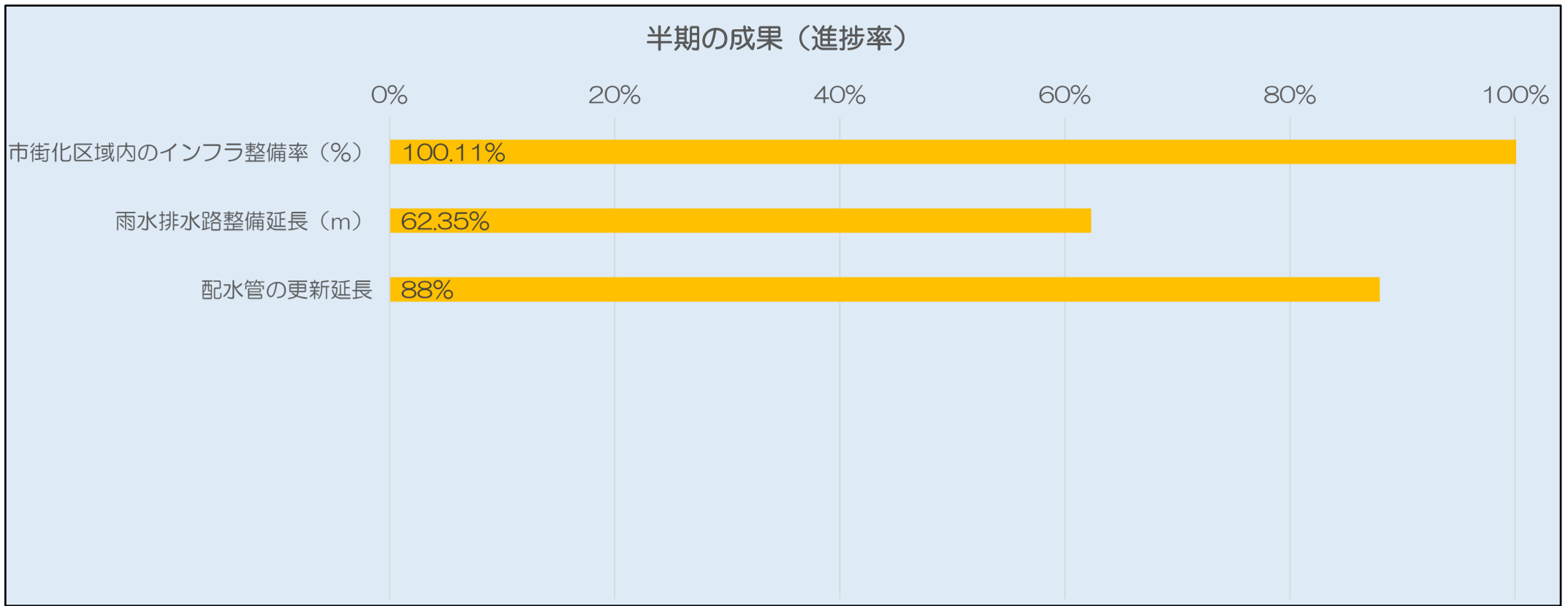
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 市街化区域内のインフラ整備率（%）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	91.5	91.60	100.11%
② 雨水排水路整備延長（m）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	1,660	1,035	62.35%
③ 配水管の更新延長	↑	ストック指標 成果累積型	産出	6,010	5,288	88%
④						
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

①汚水管整備については、5件発注済みであり、インフラ率の上昇が見込める。
 ②雨水整備については、調整池1件を発注済みであるものの、不測の事態を想定し、調整池の2期工事や管路の発注の様子を見ている状況である。国の補助割れが多くあり、他事業よりの振替で対応していながらも予定より遅れている状態である。今後も補助要望に対する交付率については、厳しい見込みではあるが、国県に対し要望していく。
 ③老朽管更新工事1件を発注済みであり、この工事が完了すると更新された水道管の総延長は5,288mとなる見込みである。目標値に対する進捗率は88%。今年度の要望額に対する交付額は8割程度となっており、次年度以降も厳しい交付率となる見込みである。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
①②③本成果達成については、予算が大きく影響し、また国の補助金の交付が大変重要であることから、国や県への密な要望活動を実施し、より具体的な計画に近づけるよう努めていく。	特になし	次年度以降	国、県への要望活動

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	19	担当課	幼児教育課	事業名	特別保育・保育サービス支援事業 幼保ありかた事業研究
施策の位置づけ	施策1-1 まちぐるみで子育てを応援する 施策の方向性 (1) 子供を生み育てやすい環境づくり 取組 (2) 総合的な子ども・子育て支援の充実			市長政策	901 幼保ありかた事業研究

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が、より高度な専門性を要する病児保育(病児対応型)について、医療機関等適切な委託先を選定する	病児保育委託施設の選定・委託契約の締結	委託先＝(医) 患育会(病児保育室もみの木)	○
産出	◆病児保育(病児対応型)市が委託した医療機関等は、子どもが病気により集団保育等が困難な期間に一時的に病院等に付設された施設で預かりを行う。	市内1施設において病児保育を実施	上半期(4～9月)利用実績＝97人(延べ)	○	
活動	・市が補助事業実施要綱を整備する ・市が施設に対し事業の周知を行う	・国県要項に基づいた市の補助要綱の制定 ・事業の概要説明(随時・施設により複数回)	施設への事業周知、意向確認、概要説明(随時)	○	
産出	◆病児保育(体調不良児型)…施設は、保育中に体調不良になった園児を、看護師を配置し、専用スペースで一時的に預かる体制を整える。	市内4施設において病児保育(体調不良児型)を実施	実施…市内4施設	○	
産出	◆延長保育…施設は、11時間を超えて、通常保育の利用時間以外に時間外保育を実施している。	市内21施設において延長保育を実施	実施…市内21施設	○	
産出	◆一時預かり(幼稚園型)…認定こども園や幼稚園は、就労や病気等で家庭保育が一時的に困難な在園児の保護者に対し、教育時間の前後や長期休業期間中の預かり保育を実施する。	私立認定こども園(6施設)、公立幼稚園(4施設)、公立認定こども園(1施設)において一時預かり(幼稚園型)を実施	実施…市内11施設	○	
産出	◆一時預かり(一般型・余裕活用品)…施設は、急病や急用等家庭保育が一時的に困難になった未就園児の保護者に対し一時的に預かりを行う。	市内私立21施設のうち実施意向を示した施設で実施	実施…市内私立19施設(公立は4施設で実施)	○	
産出	○障がい児保育事業…施設は、特別な支援を要する児童に対して配置基準以上に加配保育士を配置する。	必要とされる障がい児の受入をすべて実施(私立)	実施…市内8施設…療育加算認定施設数	○	
産出	○保育士雇用助成事業…施設は、年度途中の0・1歳児の受入に対応するため、あらかじめ保育士を確保する	市内19施設において年度中の受入体制が整い受入を実施	市内17施設 0・1歳児受入＝44人	○	
産出	○保育体制強化事業…施設は、保育士以外の保育支援者を配置する。	市内21施設のうち、保育士以外の保育支援者の配置意向があった施設で保育支援者を配置	事業実施予定 14施設で実施予定	○	

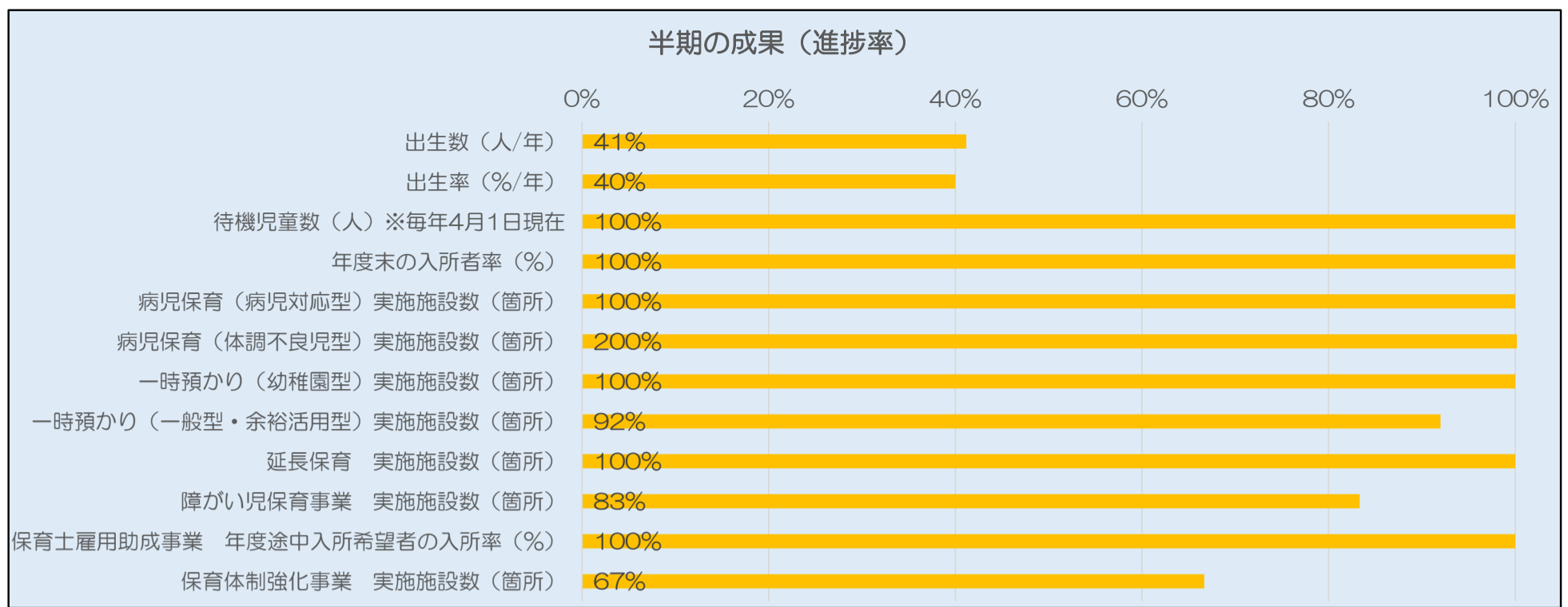
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標(単位)	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 出生数(人/年)	→	フロー指標 単年度増減型	最終成果	425	175	41%
② 出生率(%/年)	→	フロー指標 単年度増減型	最終成果	6.75	2.70	40%
③ 待機児童数(人)※毎年4月1日現在	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	0	0	100%
④ 年度末の入所者率(%)	→	フロー指標 単年度増減型	中間成果	100	100	100%
⑤ 病児保育(病児対応型)実施施設数(箇所)	→	フロー指標 単年度増減型	産出	1箇所	1	100%
⑥ 病児保育(体調不良児型)実施施設数(箇所)	→	ストック指標 成果累積型	産出	2箇所	4	200%
⑦ 一時預かり(幼稚園型)実施施設数(箇所)	→	ストック指標 成果累積型	産出	11箇所	11	100%
⑧ 一時預かり(一般型・余裕活用品)実施施設数(箇所)	↑	ストック指標 成果累積型	産出	25箇所	23	92%
⑨ 延長保育 実施施設数(箇所)	↑	ストック指標 成果累積型	産出	25箇所	25	100%
⑩ 障がい児保育事業 実施施設数(箇所)	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	12箇所	10	83%
⑪ 保育士雇用助成事業 年度途中入所希望者の入所率(%)	→	フロー指標 単年度増減型	産出	100%	100	100%
⑫ 保育体制強化事業 実施施設数(箇所)	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	21箇所	14	67%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

③待機児童数…令和2年度以降、各年4月1日時点での待機児童はゼロで、令和6年度についても、待機児童はゼロを継続
 ※年度途中においては、月齢が低い0～2歳児に関して一時的に待機が発生
 ⑧一時預かり（一般型・余裕活用型）実施施設数（箇所）…25施設中20箇所で実施（職員の配置状況等により受け入れを行っていないため。）。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	20	担当課	幼児教育課 中央図書館・分館・学 校図書館	事業名	保育園管理経費 認定こども園管理経費 幼稚園管理運営事務費 学校図書館経費（小学校） 図書館運営経費
施策の 位置づけ	施策2-1 未来を担う人人財「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 （1）たくましく柔軟な子どもを育む学校教育 取組 ①幼児教育と子育ての総合的な支援			市長政策	014 乳幼児学童の絵本・図書の充実

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
活動	市がブックスタート事業を行う	ブックスタートキットの配布	169人にブックスタート キットを配布	○
産出	子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	図書館児童書貸出数（電子 図書含む）	児童書貸出数46,415冊	○
活動	市が絵本・児童書等図書購入事業を行う	定期的な新書の購入（電子 図書含む）	絵本・児童書を月平均約50万 円分購入し、公共館・小学校図 書館・電子図書館に排架	○
産出	子どもは魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	図書館児童書貸出数（電子 図書含む）	児童書貸出数46,415冊	○
活動	図書館がかみしばい等の読み聞かせを、学校図書館が読書イベントを 行う	読み聞かせ等のイベント実 施	中央館、分館で月8回、他イベ ント3回の合計41回実施。各 学校図書館でイベントを実施。	○
産出	乳幼児や児童は親子で図書イベントへ参加する	読み聞かせ等のイベント実 施	参加者384人	○
活動	幼稚園・保育園等が保育中に読み聞かせを実施する	公立幼稚園、保育園、認定こども 園での読み聞かせの実施	公立幼稚園（3園）、保育園 （3園）、認定こども園（1 園）で実施	○
産出	子どもが魅力的で楽しい本と出会うきっかけが創出される	毎日の保育時間に読み聞か せを実施	4月～9月実績 10分/日×6月＝20時間	○
活動				
産出				
活動				
産出				

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

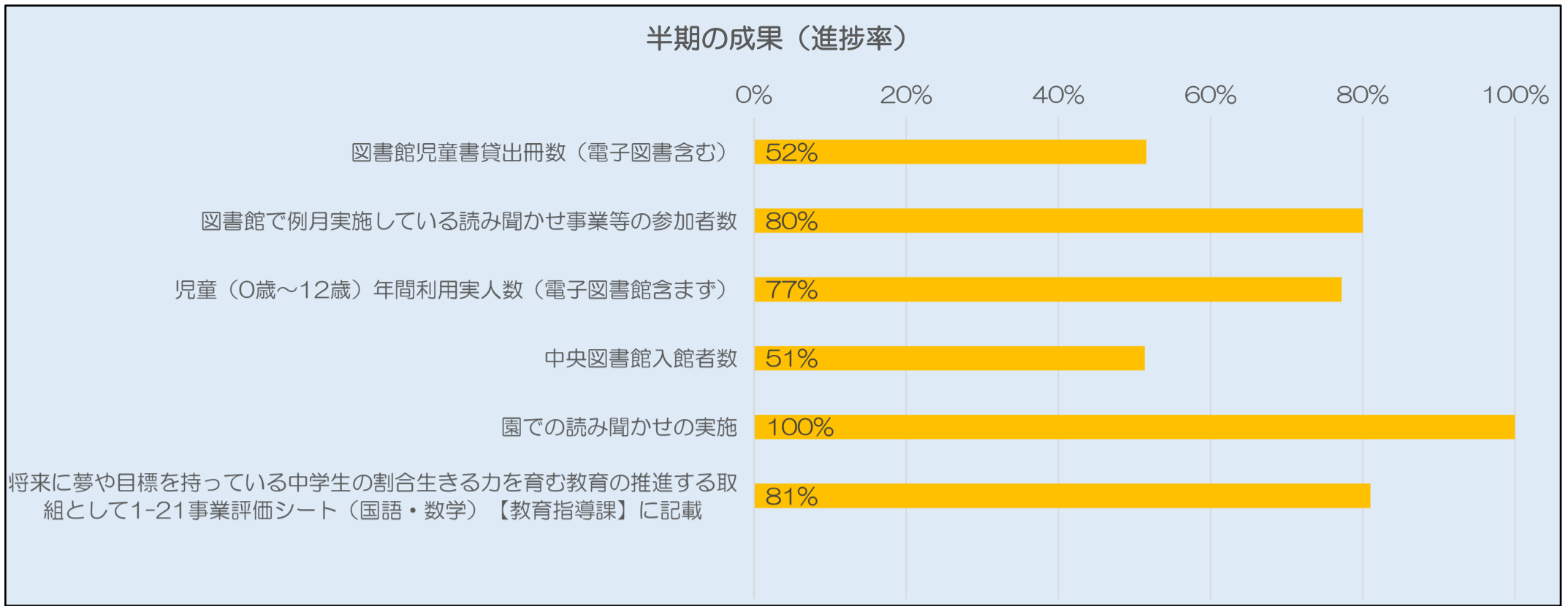
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデル の位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 図書館児童書貸出冊数（電子図書含む）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	90,000	46,415	52%
② 図書館で例月実施している読み聞かせ事業等の参加者数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	480	384	80%
③ 児童（0歳～12歳）年間利用実人数（電子図書館含まず）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	1,260	973	77%
④ 中央図書館入館者数	→	フロー指標 単年度増減型	直接成果	100,000	51,340	51%
⑤ 園での読み聞かせの実施	→	フロー指標 単年度増減型	活動	1日10分/毎日実施	1日10分/毎日実施	100%
⑥ 将来に夢や目標を持っている中学生の割合 生きる力を育む教育の推進する取組として1-21事業評価シート（国語・数学）【教育指導課】に記載	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80%	65.3%	81%
⑦						

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

どの事業も半期進捗率が令和8年度目標値の50%を超えていることから、予定どおり進捗している。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
今後さらに児童の利用者を増やすため、各種イベントを積極的にPRし、図書館への来館を促し本の貸出へとつなげる。	修正なし	今年度中	課内での共通認識

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	21	担当課	教育指導課	事業名	国語・算数指導事業経費 教職員指導対策費
施策の位置づけ	施策2-1 未来を担う人材「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 (1)たくましく柔軟な子どもを育む学校教育 取組 ②学び高めあう学校教育の推進			市長政策	015 国語・算数の学習支援

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	教員は学習指導のスキルアップを図る校外研修（授業改善プロジェクト、情報教育研修など）や校内授業研究に参加する。	授業改善PJの実施 情報教育研修の実施	授業改善PJ：4回実施 情報教育研修：3回実施	○
産出	教員の指導意欲が高まる。	授業研究や事例研究などを積極的に行う。	研究、研修などを積極的に行っている学校数：17校中12校	○	
活動	学校は児童生徒へ読書に親しむ活動を確保する。	学校に図書館司書を配置する。	全ての学校に図書館司書を配置する。	○	
産出	児童生徒は学校や自宅で読書活動を行う。	年間50冊以上読書した児童の割合	50冊以上読書した小4～6児童：1,656名中350名（21%）	○	
活動	学校は児童生徒の理解度に応じた算数（数学）の習熟度別学習を実施する。	習熟度別の授業を実施する。	習熟度別授業の実施状況：中学5校中5校／小学12校中2校	×	
産出	児童生徒が習熟度別に分かれて算数（数学）の授業を受ける。	習熟度別の授業を実施する。	習熟度別授業の実施状況：中学5校中5校／小学12校中2校	×	
活動	市（学校）はよむYOMUワークシート（新聞記事を活用した問題集）を導入する（小4～中3対象）	よむYOMUワークシートを導入する。	小4から中3までを対象に導入する。	○	
産出	児童生徒は朝学習等でワークシートを読み、設問を解く	よむYOMUワークシートを導入する。	小4から中3までを対象に導入する。	○	
活動	市（学校）は児童生徒の学習を支援するICTドリルソフトNavimaを導入する	Navimaを導入する。	小1から中3までを対象に導入する。	○	
産出	教員のICTドリルソフトNavimaの活用が促進される	Navimaを導入する。	小1から中3までを対象に導入する。	○	
活動					
産出					

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

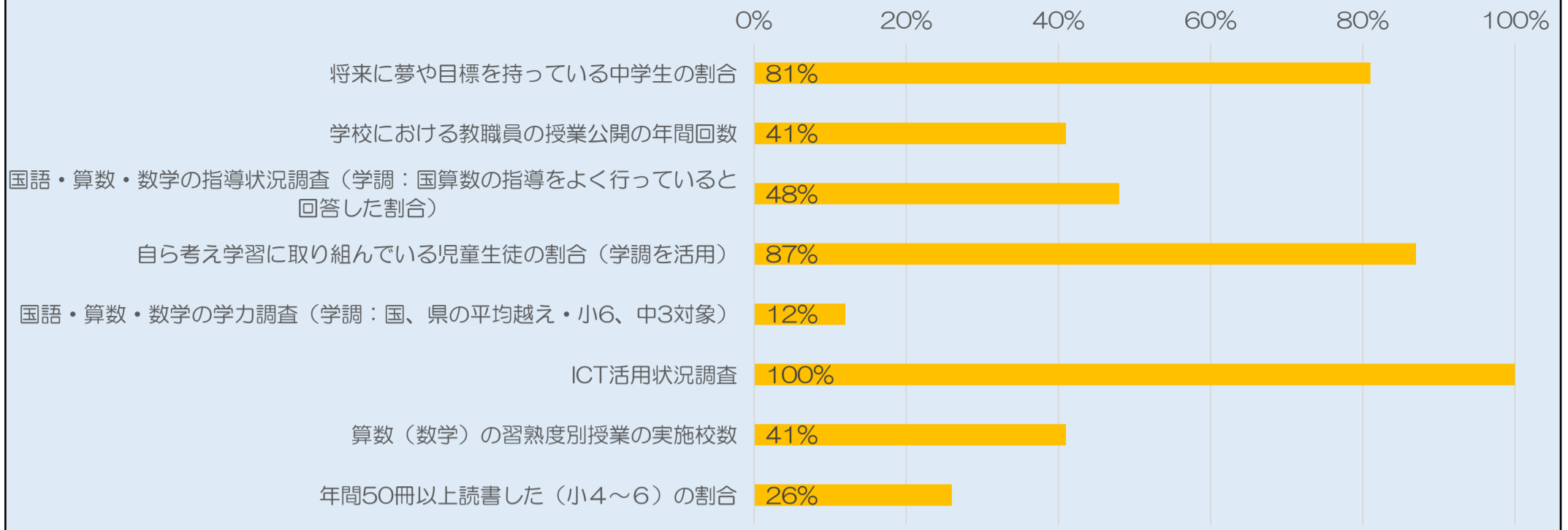
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
算数・数学において習熟度別の学習を実施する。	小学校では実施できる学校が少ない。	習熟度別授業をするにあたり、指導する教員がいない。	市独自の教職員を配置する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 将来に夢や目標を持っている中学生の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80%	65.3%	81%
② 学校における教職員の授業公開の年間回数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	520回	216回	41%
③ 国語・算数・数学の指導状況調査（学調：国算数の指導をよく行っていると回答した割合）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	100%	48%	48%
④ 自ら考え学習に取り組んでいる児童生徒の割合（学調を活用）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	90%	79%	87%
⑤ 国語・算数・数学の学力調査（学調：国、県の平均越え・小6、中3対象）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	8項目平均越え	1項目平均越え（国語・小6・県平均）	12%
⑥ ICT活用状況調査	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	国平均越え	国平均越え	100%
⑦ 算数（数学）の習熟度別授業の実施校数	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	17校	7校	41%
⑧ 年間50冊以上読書した（小4～6）の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80%	21.0%	26%

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

目標達成に向けて様々な手段を計画し実施している。しかし、学力の向上や夢や目標を持つ子どもたちの増加につなげることができていない。実施したことがすぐに結果としてつながる目標ではないので、今後も様々な事業を継続していく。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
算数・数学の習熟度別授業を実施しているが、学校の規模（教員数）によっては実施できない状況がある。習熟度別授業を実施するため、教員の増員が必要である。	算数・数学に関する市費負担教職員の配置を活動に追加する。	次年度以降	人件費分の予算増額が必要

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

児童生徒の学力を向上させるためには、教員一人ひとりの能力の向上も必要だが、市独自の学校勤務職員の増員も必要である。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	22	担当課	社会教育課 教育指導課 中央図書館・大野分館	事業名	文化事業 鹿嶋市文化スポーツ振興事業団支援事業 教職員指導対策費 生涯学習推進事業 文化財保護経費 図書館運営経費 学校図書館経費（小・中学校）
施策の位置づけ	施策2-2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む 施策の方向性（1）シビックプライドを育てる「郷育」 取組 ①郷土理解教育の促進			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
活動	教育委員会が子どもたちを中心に郷土かるたの普及・啓発を行うため体験事業を実施する。	社会教育課窓口やイベント等での販売、体験教室の開催	窓口販売23件、鹿嶋まつり(10/5, 6)での販売2件 R7.1月に体験教室開催予定	○
産出	市内の子ども達が郷土かるたを行う機会が増える	各小学校への普及依頼及び配布	普及依頼文とあわせて小学校に配布予定	
活動	教育委員会が市内中学生にいばらきっ子郷土検定の啓発を図る	各中学校での大会開催及びその他の学年への啓発活動	10/31市内公立中学校にて、2年生を対象に大会を開催予定	
産出	市内中学生がいばらきっ子郷土検定へ参加する	市立中学2年生約460人	10/31市内大会上位校（1高）が2月の県大会に出場	
活動	教育委員会が市民対象に伝統文化親子体験事業を実施する	伝統文化親子体験事業の実施(6教室400組800人を募集)	茶道10回(7~9月) 和紙絵4回(8月) 祭囃子3回(6~11月)※開催中 華道6回(9~11月)※開催中 和飾り3回(10月)※開催中 11月(てら祭)で鹿嶋大助人形制作教室2回(50組100人)開催予定	○
産出	市内の子ども達が各種体験事業へ参加する	茶道、和紙絵、祭囃子、華道、和飾り、鹿嶋大助人形制作の6教室を実施	茶道10回(7~9月)※人数 和紙絵4回(8月)※人数 祭囃子3回(6~11月)※開催中 華道6回(9~11月)※開催中 和飾り3回(10月)※開催中 11月(てら祭)で鹿嶋大助人形制作教室2回(50組100人)開催予定	○
活動	文化スポーツ事業団がまんが鹿島の歴史制作事業を実施する	まんが鹿島の歴史第5巻の制作	事業団に対して文化事業補助金を交付。	
産出	市民がまんが鹿島の歴史を読む	まんが鹿島の歴史の提供(販売)	R6.10.10現在の販売冊数 3,116冊(第1巻1,300冊、 第2巻896冊、第3巻686冊、 第4巻 234冊)	
活動	文化スポーツ事業団が歴史文化事業を実施する	各種イベントの実施	7月 歴史講演会、商工会フェス 勾玉づくり(2回)48人、FM夏フェス：勾玉づくり 8月 土器掘り体験	○
産出	市民が歴史文化事業(展示、講演会)に参加する	ココシカ企画展 勤文企画展・歴史講演会 勤文マルシェ どきどきセンター企画展 商工会フェス 土器掘り体験ほか	6月 ココシカ企画展「古代の鹿嶋郡」 7月 勤文企画展「古代の鹿嶋郡」・歴史講演会「平安時代の鹿嶋」161人ほかオンライン 7月 勤文マルシェ61人 8月 どきどきセンター企画展「古代の鹿嶋郡」161人 8月 商工会フェス「読めるかな？古代の文字」 8月 土器掘り体験(3回)18人 8月 平安文字を書いてみよう(2回)22人	○
活動	文化スポーツ事業団が市民にデジタルコンテンツを用いた文化財普及事業を実施する	企画展の紹介動画の作成・配信	①古墳に眠っていた宝物(再生506回) ②どきどきセンターってどんなところ(再生246回) ③平安時代の鹿嶋⇒準備中	○
産出	市民が文化財普及事業へ参加する	ココシカ企画展 勤文企画展・歴史講演会 勤文マルシェ どきどきセンター企画展 商工会フェス 土器掘り体験ほか	6月 ココシカ企画展「古代の鹿嶋郡」 7月 勤文企画展「古代の鹿嶋郡」・歴史講演会「平安時代の鹿嶋」161人ほかオンライン 7月 勤文マルシェ61人 8月 どきどきセンター企画展「古代の鹿嶋郡」161人 8月 商工会フェス「読めるかな？古代の文字」 8月 土器掘り体験(3回)18人 8月 平安文字を書いてみよう(2回)22人	○

事業実施状況

活動	市内小学校が社会科副読本を積極的に活用する	副読本を活用した授業を実施する。	市内12小学校で実施	○
活動	市内小中学校が郷土資料・図書を活用した授業を充実させる	郷土資料・図書を活用した授業を実施する。	市内17小中学校で実施	○
産出	市内小中学生が郷土教育を学ぶ	郷土に関する授業を実施する。	市内17小中学校で実施	○
活動	教育委員会が市内各小中学校へコミュニティスクールを推進する	市内全小中学校にて学校運営協議会（年4回程度）を実施する。	2回目の学校運営協議会が全校で終了。現在、各校で3回目が実施されている。	○
産出	地域の方々が市内小中学校に行く機会が増える	学校運営協議会による行事参加や学校支援ボランティアによる活動	学校運営協議会委員による登下校での見守り活動や美化活動などの学校行事に参加する機会が増えている。学校ボランティアも各校において、有効に活用されている。	○
活動	図書館・学校図書館での郷土資料を充実させる	郷土資料の購入、受贈	郷土資料の受入れ67冊（全冊受贈）	○
産出	市内小中学生の郷土歴史・文化に触れる機会が創出される	図書館の郷土資料貸出	郷土資料の貸出数1,271冊	○
活動	図書館・学校図書館での郷土図書のPR、コーナーや展示を充実させる	郷土資料のPR、コーナー充実	郷土資料3点を電子図書館用にデジタルデータ化した。	○
産出	市内小中学生の郷土歴史・文化に触れる機会が創出される	図書館の郷土資料貸出	郷土資料の貸出数1,271冊	○
活動	図書館が郷土歴史に関する教室等のイベントを開催する	歴史教室2回	歴史教室1回実施	○
産出	市民が市の歴史教室等イベントへ参加する	図書館の歴史教室等に参加	歴史教室23人参加	○

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

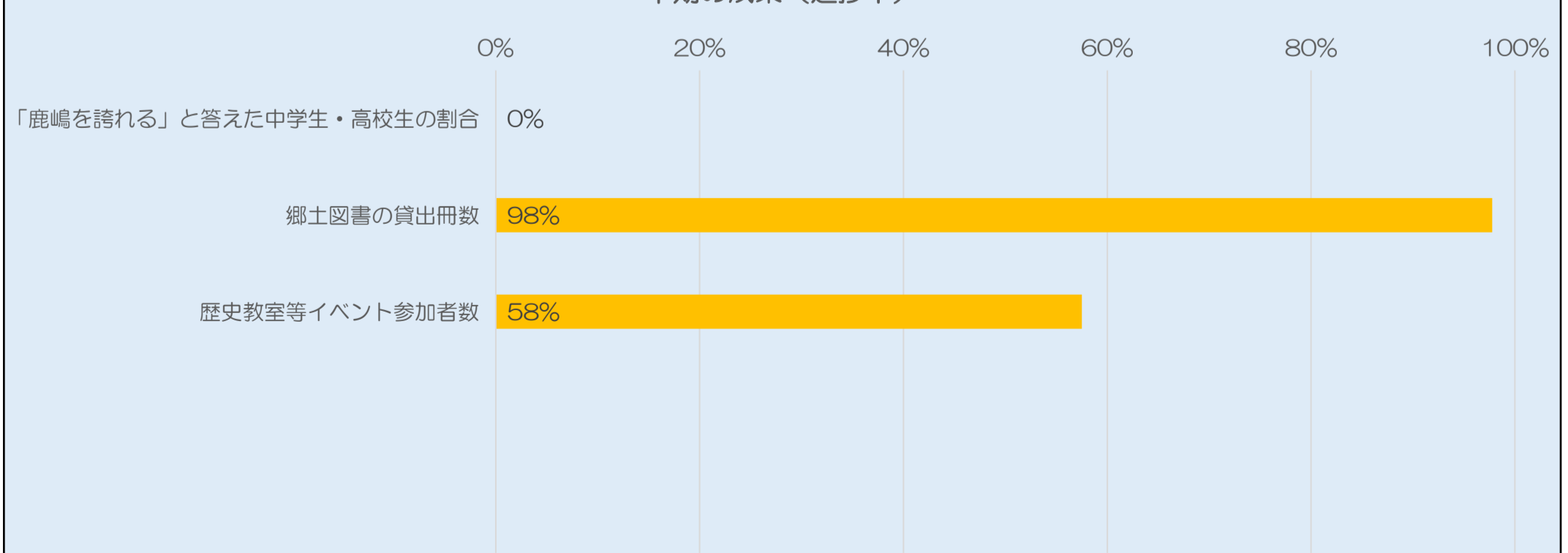
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 「鹿嶋を誇れる」と答えた中学生・高校生の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	70	0	0%
② 郷土図書の貸出冊数	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	1,300	1,271	98%
③ 歴史教室等イベント参加者数	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	40	23	58%
④						
⑤						

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・郷土かるたの小学校へのPRが不足しているため、後期に向けて機会を設けたい。そのほかの活動は、おおむね順調に行われている。
- ・指標（「鹿嶋を誇れる」と答えた中学生・高校生の割合）については、例年2月に集計する予定。
- ・図書館については、半期進捗率が令和8年度目標値の50%を超えていることから、予定どおり進捗している。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
各小学校への積極的なPR	特になし	今年度中	課内での共通認識
モニタリング指標「歴史教室等イベント参加者数」について、図書館で実施している「読み聞かせ『鹿嶋の民話』」も郷土歴史に関するイベントであることから、その参加者数を目標値に含めることとする。	歴史教室等イベント参加者数のモニタリング指標目標値を年40人から年100人へ修正する。	次年度以降	

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	23	担当課	総務就学課 教育指導課	事業名	中学校教育振興支援事業 英語指導事業経費
施策の位置づけ	施策2-1 未来を担う人材「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 (1)たくましく柔軟な子どもを育む学校教育 取組 ③生きる力を育む教育の推進			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	中学校はキャリア教育を推進する。	事業者などと連携したキャリア教育の実施	事業者などと連携したキャリア教育の実施回数：35回	○
産出	生徒は民間事業者等の多様な職種の人との交流の機会を得る。	事業者などと連携したキャリア教育の実施	事業者などと連携したキャリア教育の実施回数：35回	○	
活動	教職員はキャリア教育指導向上に係る研修などに参加する。	教員は研修に参加するなど、自己研鑽にはげむ	学調の項目からなくなり、状況把握が困難になる。	×	
産出	教員の指導意欲が高まる。	教員は研修に参加するなど、自己研鑽にはげむ	学調の項目からなくなり、状況把握が困難になる。	×	
活動	教育委員会は、児童向けにイングリッシュラウンジの実施や留学生などと交流する機会を設ける。	イングリッシュラウンジ、留学生交流事業の実施	左記事業を実施する。	○	
産出	児童生徒は英語を母国語とする外国籍の方と触れ合うことで、多様な英語学習の機会を得る。	イングリッシュラウンジ、留学生交流事業の実施	左記事業を実施する。	○	
活動	教育委員会は生徒の英語能力を測る4技能テストを実施する。	英検IBAの実施	10月～11月にかけて実施する。	○	
産出	児童生徒は英語を母国語とする外国籍の方と触れ合うことで、多様な英語学習の機会を得る。	英検IBAの実施	10月～11月にかけて実施する。	○	
活動	教育委員会は児童生徒に個別学習ツール（ドリルソフトE4S）を提供する。	個別学習ツールを提供する。	個別学習ツールを提供した。	○	
産出	児童生徒は英語を母国語とする外国籍の方と触れ合うことで、多様な英語学習の機会を得る。	個別学習ツールを提供する。	個別学習ツールを提供した。	○	
活動	教育委員会は、ALTや英語能力向上スーパーバイザーを配置する。	ALT、英語能力向上SVを配置	全ての学校にALTを配置	○	
産出	児童生徒は多様な英語学習の機会を得る。	ALT、英語能力向上SVを配置	全ての学校にALTを配置	○	

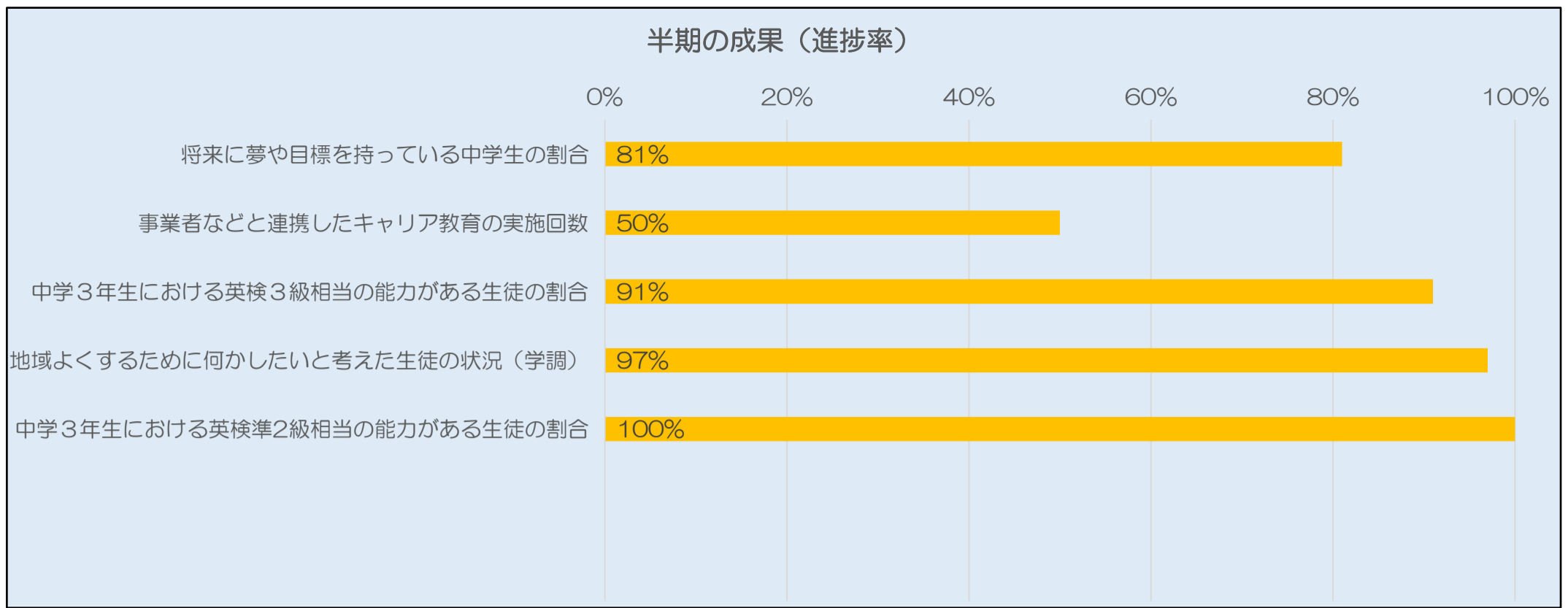
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
教員の指導意欲が高まる	指導の状況を把握することができなかった。	学調の調査項目ではなかった。	違う手法で状況を把握する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 将来に夢や目標を持っている中学生の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	80%	65%	81%
② 事業者などと連携したキャリア教育の実施回数	↑	フロー指標 単年度増減型	活動	70回	35回	50%
③ 中学3年生における英検3級相当の能力がある生徒の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	65%	59%	91%
④ 地域よくするために何かしたいと考えた生徒の状況（学調）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	80%	78%	97%
⑤ 中学3年生における英検準2級相当の能力がある生徒の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	5%	5%	100%
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

目標達成に向けて様々な手段を計画し実施している。しかし、目標を持つ子どもたちの増加につなげることができていない。実施したことがすぐに結果としてつながる目標ではないので、今後も様々な事業を継続していく。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
英語指導事業経費の活動の項目の分け方を変更する。事業と教材に分類分けをする。	活動の項目を分け方を変更する。	今年度中	予算等の変更は伴わない。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

キャリア教育の一環として、市役所でも職場体験の受け入れを行っているが、受け入れをしてくれる部署が限定的である。市役所全体での取り組みが必要である。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	24	担当課	社会教育課	事業名	文化財保護経費
施策の位置づけ	施策2-2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む 施策の方向性 (1) シビックプライドを育てる「郷育」 取組 ②郷土の歴史・文化の保全と継承			市長政策	017 歴史探究とデジタルアーカイブ

【プロセス評価】 ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市職員が史跡の維持管理を行う	史跡の草刈り委託	委託契約をし、維持管理を行っている。 比屋久内遺跡：1回 林城跡：2回 ハマナス自生南限地帯：1回 郡家跡：2回 浅間塚：0回	○
活動	ミニ博物館の管理運営を委託する	NPO法人かしま歴標に管理運営を委託	年間の契約を締結し、管理運営を行っている。	○	
活動	文化財保護審議会が文化財を指定する	未指定文化財の審議	・R6.3月に審議した三笠山道路衢神を、R6.4月の教育委員会会議に上程し、5月に指定文化財とした。	○	
活動	市史刊行調査員が古文書を解説する	惣大行事日記（元治～慶応）の解説文の製本、古文書の整理	・現在所有する古文書を整理し目録を作成。 ・R7.3月に惣大行事日記（元治～慶応）の解説文を刊行。	○	
活動	文化財専門検討委員会を設置し、市内文化財を総合的に把握する	市内文化財の総合的把握（データ化）	専門検討委員会で決定した保存基準をもとにデータ入力作業を実施（1/3程度終了）。	○	
活動	市民及び市職員が既存の文化財を適正に管理する	史跡の草刈り委託	市民団体が比屋久内遺跡、林城跡の除草を、行政がハマナス自生南限地帯、郡家跡、浅間塚、夫婦塚古墳の除草を業者に委託した。	○	
活動	市指定文化財が増える	未指定文化財の審議	・R6.3月に審議した三笠山道路衢神を、R6.4月の教育委員会会議に上程し、5月に指定文化財とした。 ・その他、市内遺跡試掘調査を随時実施。また令和4年から県の委託事業として行っている豊郷台地の発掘調査においては、指定対象となりうる文化財が出た場合は審議を行い、保護に努める。	○	
活動	文化財専門検討委員会が文化財の状況に応じた保存（実物・デジタル）の要否及び適否の判断および保存方法を示す	文化財の保存の判断、保存方法の決定	・検討委員会で決定した保存基準を基に判断する。	○	
産出	どきどきセンターやミニ博物館等で文化財の展示や周知がされる	指定文化財を展示	両施設の常設展示だけでなく、勤文や商工会会館等でのイベントに併せて文化財の展示や体験教室を行った。	○	
活動	市職員が文化財に関連する研修に参加する	専門知識の習得	職員（2人）が、県主催の埋蔵文化財調査研修（7月～8月の8日間）に参加し、実際の発掘作業や他自治体の先進事例を学んだ。	○	
活動	市職員がデジタルアーカイブに必要な機器を調達する	機器の購入	撮影機材（カメラ式）及び専用PCを購入（7月指名競争入札）した。	○	
活動	市職員がデジタル化保存技術の研究を行う	研修会等への参加	国の研修会は競争率は高いので、他自治体や民間が行う研修等をオンラインで参加予定。	○	
活動	市職員が文化財に関連する新たな知識や技術（デジタル化保存技術を含む）を習得する	デジタル保存技術の習得	購入した機材（カメラ、PC等）による撮影を行いながら技術を習得する。	○	
産出	デジタル化等記録により保存と保存記録のデータベース化が図られる	デジタルデータ化への推進	保存基準等によるデジタルデータ化に向けた入力作業と並行して購入した機器による撮影を開始した。	○	

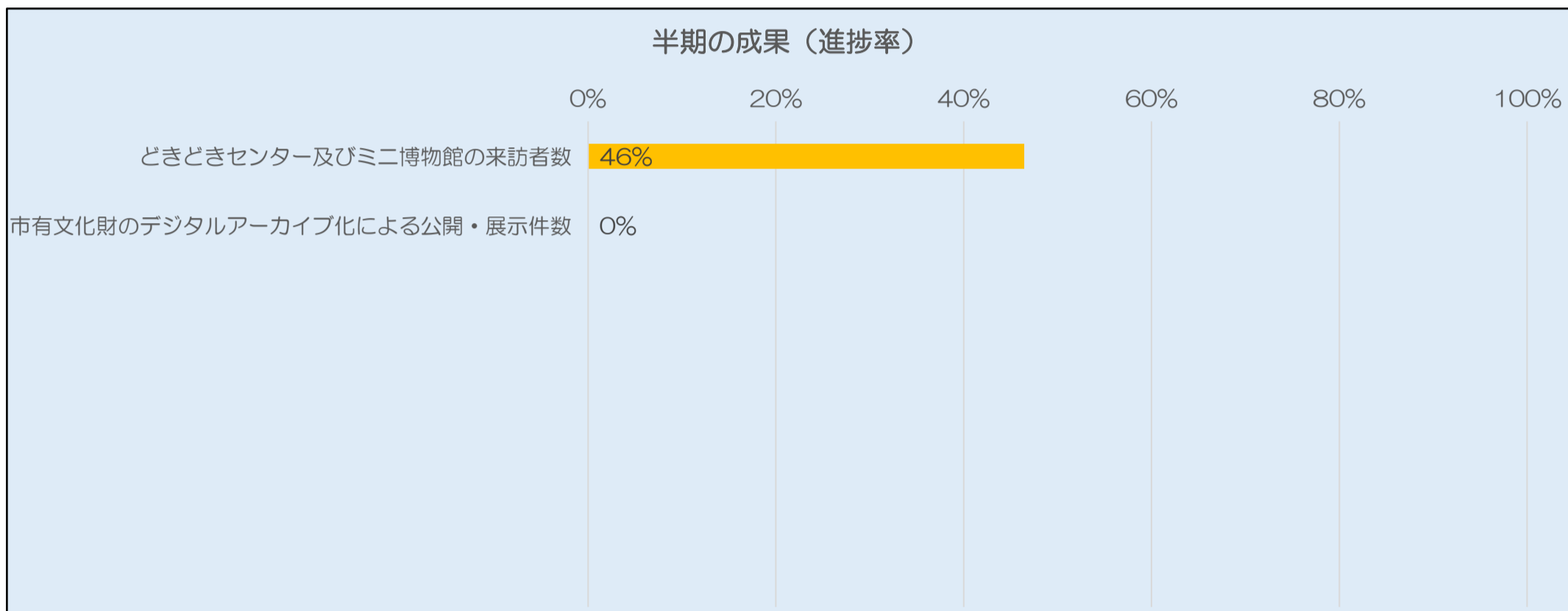
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市職員がデジタル化保存技術の研究を行う	デジタル化関連の研修は、少ないうえ募集規模も小さいため参加しにくい状況にある	専門的な研修での技術習得が効果的と考えるため、研修を受講したい。	オンラインでの研修も含めて、目的と合致した研修が見つかった場合は積極的に参加する。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① ときどきセンター及びミニ博物館の来訪者数	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	10,000人	4,645人	46%
② 市有文化財のデジタルアーカイブ化による公開・展示件数	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	3件	0件	0%
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- 市文化財の指定も順調に行われ、展示等もおおむね予定どおり行われている。
- ミニ博物館ココシカにおいては、入場者数が昨年度比で138人増えている（8月はコラボ企画の影響もあり、1,103人の入場があった）。
- ときどきセンターにおいては、入場者数が昨年度比で345人減っている（8月の土器掘りが猛暑により参加者が激減した）。
- 文化財の適正な管理についても、保存基準をもとに、整理されるものと考えられる。
- デジタルアーカイブ化による公開・展示についても、機材の購入ができたため、今後、推進が図られるものと考えられる。それに伴い、撮影や展示等の技術の習得に注力していきたい。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
・ときどきセンターでの屋外イベントについては、時期をずらすなどの暑さ対策が必要。	特になし	次年度以降	

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

- 現ときどきセンターは、手狭であるうえ、老朽化も進んでいることから、新たな施設への移設も必要と考えられる。
- 文化財関係に関しては、より専門的知識が必要であるため、専門的職員の定期的な増員を行い、課としての組織運営も必要と考える。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	25	担当課	スポーツ推進課	事業名	社会体育振興事業
施策の位置づけ	施策3-1 スポーツに親しみ健康を維持する 施策の方向性 (1) スポーツ活動・交流の推進 取組 ①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進			市長政策	-

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	事業実施状況	活動	市が多世代の市民へのスポーツに親しむ機会を提供する	市民参加型スポーツイベントの実施(毎月1回の全11回)	5月以降毎月実施(4回) 雨天による中止(1回)
産出		スポーツイベント参加者が増え、多世代の市民が身体を動かすきっかけづくりとなる	参加者増加 月平均350人	293人	×
活動		市がスポーツ実践者や団体の支援をする	・スポーツ振興事業補助金 ・全国大会出場報奨金	・補助金の交付 ・報奨金の交付(個人35件、団体15件)	○
産出		スポーツを通じた人材育成が図られる	スポーツ協会(競技部、育成部、普及部、少年団、KSC)、硬式野球協会の活動強化	・スポーツ協会会員数 ・かしまスポーツクラブ会員数 ・エリアサービス指導者	○
活動		市が各種スポーツ大会を開催・誘致する	サッカーフェスティバル、フットサル大会、剣道・柔道大会(ト伝杯)、ゴルフ大会、駅伝大会、地区対抗球技大会・民間企業と連携したイベントの開催	サッカーフェスティバル、フットサル大会、剣道・柔道大会(ト伝杯)、ゴルフ大会・アルペンの健康体操教室	○
産出		参加した市内のスポーツ実践者・チームの競技力が向上する 交流人口が増加する	県内外チームを各種大会に招致する	サッカーフェスティバルにおいて鹿島学園やアントラーズJrが好成績を残す。フェスティバルの県外参加高校は83.3%。Jr-1には海外チーム2チームが参加、ト伝杯で剣道の市外チーム87.5%、柔道の市外チーム83.8%の参加がある	○
活動		市が主体となりパラスポーツ体験会等を推進する(幼稚園、小学校、地区公民館等)	市民参加型イベントでの体験会、公立幼児施設体験会、オリパラ事業小学校2校で体験会、地区公民館単位でポッチャ大会	みんなのスポーツフェスタでポッチャ大会、公立幼認こ体験会(5園)、オリパラ事業でブラインドサッカー体験会及び講演会(小学校2校)	○
産出		参加した市民の言動がポジティブになる 参加した市民が、相互理解と尊重の重要性を認識する	体験後アンケートの実施	オリパラ推進事業が未実施であり10月下旬及び1月中旬にアンケートを徴収予定。	
活動					
産出					

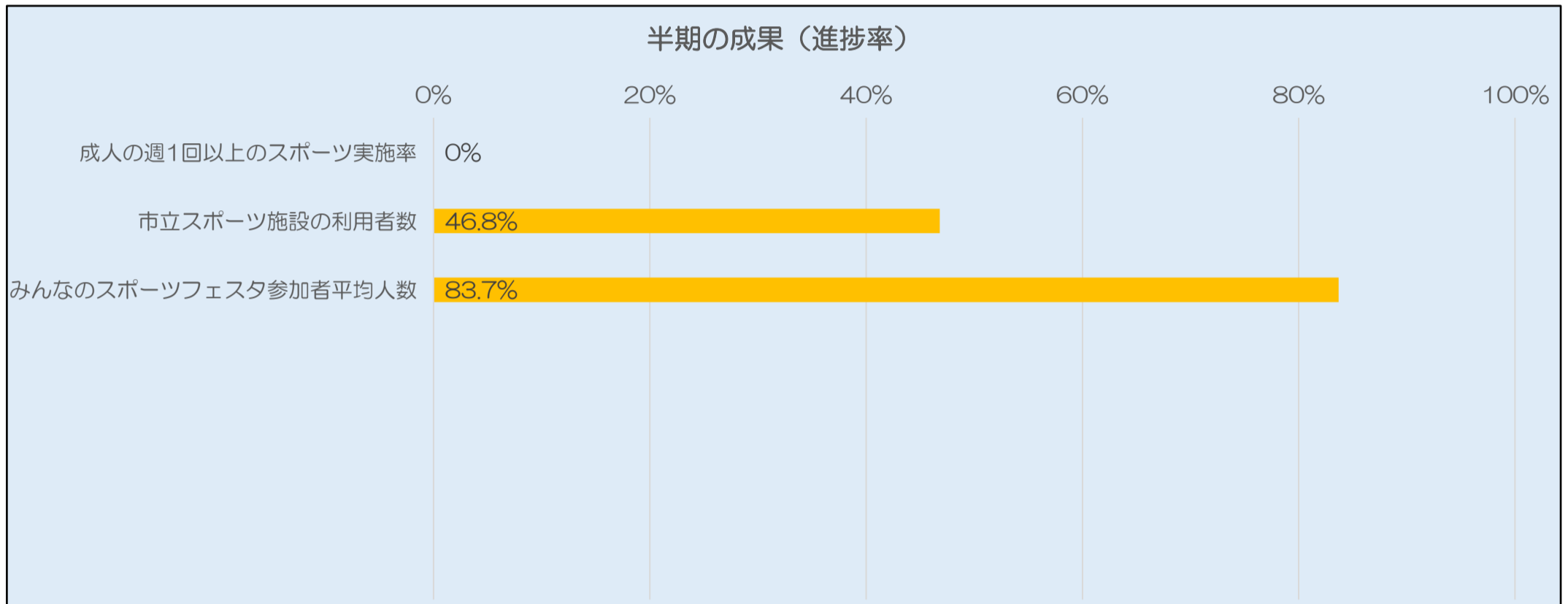
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
スポーツイベント参加者が増え、多世代の市民が身体を動かすきっかけづくりとなる	毎回300人前後の参加者である	みんなのスポーツフェスタのプログラムが3年目を迎えマンネリ化している	ニュースポーツの導入や参加協力団体の発掘が必要 参加者からの意見や要望を得られるためのアンケートを実施し、満足度の向上を図る

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 成人の週1回以上のスポーツ実施率	→	フロー指標 単年度増減型	最終成果	65%	-%	-
② 市立スポーツ施設の利用者数	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	400,000人/年	187,335人/年	46.8%
③ みんなのスポーツフェスタ参加者平均人数	→	フロー指標 単年度増減型	活動	350人/回	293人/回	83.7%
④						
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

社会体育振興事業としては、予定どおりの事業を実施し、市民のスポーツを通じて地域の活性化やスポーツを楽しめる持続可能な環境が作られているが、みんなのスポーツフェスタが3年目を迎え、プログラムに代わり映えが無くマンネリ化し来場者が頭打ちである。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
みんなのスポーツフェスタのプログラムの更新（新たなスポーツの導入）		次年度以降	ニュースポーツの導入のための道具の購入が必要
みんなのスポーツフェスタのプログラムの更新（新たなイベントの参加）		次年度以降	スポーツのイベントとして捉えるのではなく、「健康」もキーワードに健康福祉部も参加し市民のウエルビーイングの実現をともに行う
みんなのスポーツフェスタのプログラムの更新（新たなメインイベント参加団体の発掘）		今年度中	住友生命相互会社を始めとした関係団体からの紹介やSNS等を利用し、新しいイベントブース出展の可能な団体の発掘に努める

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

みんなのスポーツフェスタは、毎月約300人の参加がある市民参加型イベントであり、多くの出展ブースがある。そのため、毎月当課だけではなく教育委員会内での動員も行い運営しているが、高校生ボランティアの協力が欠かせない現状にある。そのため、全庁的な動員が行われることで運営人員の不足が解消されることが期待される。また、新規スポーツの導入には財源が必要であるが、プログラムのマンネリ化の解消や参加者の満足度の向上、運営側の知識・経験の増加等多角的にメリットが見込まれるため、是非とも新規スポーツの導入を進めたい。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	26	担当課	中央公民館 地区公民館	事業名	公民館活動費
施策の位置づけ	施策2-2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む 施策の方向性 (2) 共に創り育む「鹿嶋文化」 取組 ②地域の絆づくりとオーナーシップの醸成			市長政策	010 公民館地域づくりの推進

【プロセス評価】ロジックモデルのとおり活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	地区まちづくり委員会が地区公民館を拠点として、住民主体とした学びや交流、地域づくりの各種事業等を展開する。	住民主体による各種事業開催	10地区まちづくり委員会（地区公民館）	○
活動	地域住民・団体が相互に協力し特色ある地域づくりの取り組みを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 高松（地域の伝統継承） 波野（地域子育て） 平井（歴史再発見） 	<ul style="list-style-type: none"> 高松（行事等で披露） 波野（子どもの会議等開催） 平井（地域の歴史検索） 	○	
産出	地域住民が体験型や座学等の事業に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 高松（音源、振付の記録） 波野（地区懇談会開催） 平井（かるた制作） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が地域の魅力や伝統等を再発見、関係者（人材）の発掘及び意識高揚等に寄与 地域行事参加人数：14,284人（9月） 	○	
活動	公民館が各市民団体と連携して、教育や芸術文化の普及等に関する事業を行う（美術展覧会など）	<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジ 年6回 芸術文化事業の開催 親子体験教室（和紙絵・陶芸） 	<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジ 3回 美術展、芸術祭の開催 和紙絵親子体験 4回 	○	
産出	多くの住民が地域の魅力や伝統・文化を再発見する事業に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術祭等への新たな参加者（若い世代）の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術祭に市内高校生や特別支援学校生徒の作品を出品 	○	
活動	公民館が学校と連携し子どもや若い世代の地域（公民館）活動の機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> 各公民館事業の運営側へ、子どもの参加協力の呼びかけ 学校と合同で住民体育祭を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生が企画会議に参加（波野） 中学生が、各事業の運営ボランティアとして参加（各地区） 学校合同の住民体育祭を開催（高松・豊津） 	○	
産出	子どもの地域参加が促進される	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが公民館事業等を通じて地域との触れ合いが生まれる 	<ul style="list-style-type: none"> 小、中学生が運営やボランティアとして地域活動に参加、交流 	○	
活動					
産出					
活動					
産出					
活動					
産出					
産出					

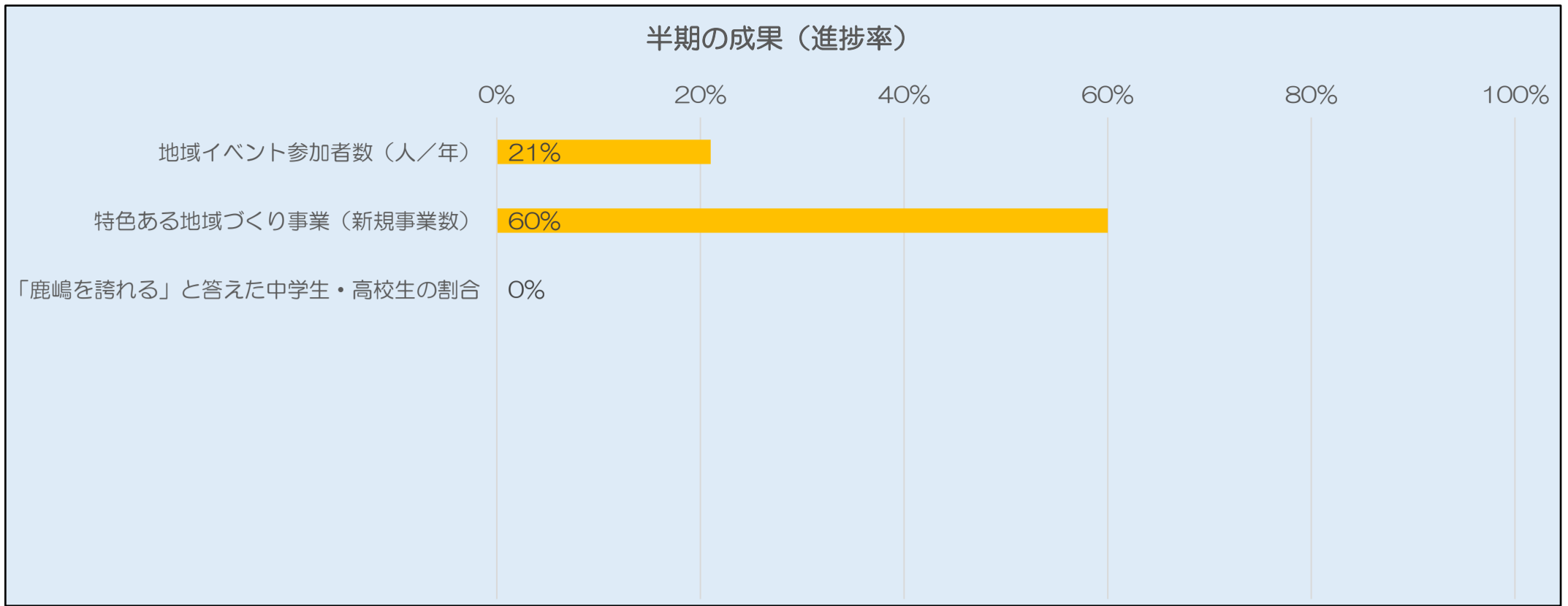
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
地区まちづくり委員会が地区公民館を拠点として、住民主体とした学びや交流、地域づくりの各種事業等を展開する。	全体的に参加者が増加しているが、一部の事業で参加者が固定化されている。	一部の事業で、マンネリ化が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> 地区まちづくり委員の新規加入及び多世代化あるいは世代交代を行い活性化を図る。 新しく作成した地区コミュニティプランによる各事業内容の見直しを進める。
地域住民・団体が相互に協力し特色ある地域づくりの取り組みを考える。	一部の地区で新規事業（特色事業）の提案に行き詰っている。	地域によって、自然環境等の資源や魅力・伝統などの特色が異なる。	<ul style="list-style-type: none"> 新しく作成した地区コミュニティプランをもとに、事業の実践を行うことで地域の特徴や魅力等を再認識する。
公民館が各市民団体と連携して、教育や芸術文化の普及等に関する事業を行う（美術展覧会など）	<ul style="list-style-type: none"> 市美術展、芸術祭、文化フェスティバルの3大事業への参加者増に対して、出品者が減少 	創作活動者（出品者）の高齢化	鹿嶋市文化協会と協議し、事業内容（出品規格・対象等）の見直しや新規出品者の更なる拡充を図る。

【アウトカム/インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 地域イベント参加者数（人/年）	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	67,500	14,284	21%
② 特色ある地域づくり事業（新規事業数）	↑	ストック指標 成果累積型	活動	10	6	60%
③ 「鹿嶋を誇れる」と答えた中学生・高校生の割合	↑	フロー指標 単年度増減型	最終成果	70	0	0%
④						
⑤						
⑥						
⑦						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

コロナ禍を経て、行政区役員の負担軽減を図るため、全住民を対象とした事業を簡素化。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ（ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
地区まちづくり委員の多世代化を図り、新たな事業を展開することで、地域コミュニティの活性化を図る。	事業内容が決まり次第、必要な修正を行う。	次年度以降	特になし

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）